

八戸南部家旧蔵
博物標本資料

八戸市博物館

八戸南部家旧蔵 博物標本資料

八戸市博物館

八戸南部家旧蔵「博物標本資料」

令和4年（2022）3月31日発行

編集・発行／八戸市博物館

青森県八戸市大字根城字東構35-1

Tel：0178-44-8111

印刷／八戸印刷工業株式会社

青森県八戸市大字妙字大開69

Tel：0178-25-4848

はじめに

動植物や鉱物など、自然界に存在する様々なものを研究対象とする「博物学」の流れは、小学校の理科をはじめ、中学・高校の生物や地学の中に受け継がれているといわれます。言葉としては、明治期に「Natural history」の訳語として成立し、今では広義に自然科学全般を指す「博物学」のルーツは、古代ギリシア時代にさかのぼるとされます。

西洋の「博物学」にあたるものとして、東洋では医薬に関する学問「本草学」が発達し、今日まで継承されてきました。中国経由で日本に上陸したこの学問は、江戸時代に全盛期を迎え、やがて西洋の学問とも結びつき、現代まで続いてきました。

これらの学問は、自然から採集したあらゆるものについて、同定と分類を試みます。その対象には、研究者であるか否かに関わらず、知的好奇心をくすぐられるような珍奇の品も多数含まれています。

本書は、これらの学問に深く関わるであろう八戸南部家旧蔵の資料を一挙に収録したものです。全国的に見ても極めて珍しい資料群でありながら、これまで未整理だったため、この度ひとまずの整理作業を終え、全体像を公開することといたしました。

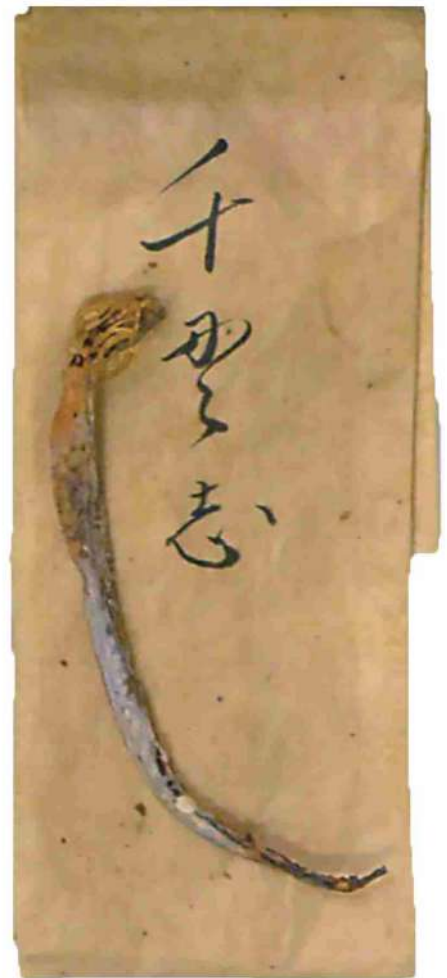
未だ科学分析も物質同定も行っておらず、資料群成立の背景すら不明と言わざるを得ない現状にありますが、本書の刊行を一つの契機として、幅広い分野から当該資料群へ目を向けていただき、今後の調査研究が進展していくことを願います。

令和4年3月

八戸市博物館

館長 小保内 裕之





■ 目次

はじめに

目次・例言

八戸南部家旧蔵「博物標本資料」について・・・ 1

資料写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

資料一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

主要参考文献等・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

■ 例言

- ・本書は、八戸南部家旧蔵「博物標本資料」の目録である。今後の調査研究に資するため、当該資料の写真と基礎情報を収録した。
- ・当該資料に対し、これまで主に「本草関係資料」または「本草資料」の名称を用いてきた。本来「本草学」は中国の薬物学研究を指すが、本草学が日本で全盛を迎えた江戸時代には日本の固有種なども研究対象となり、当該資料もその年代のものと推定されることから、これまで「本草学に関する資料群」と解釈されてきた経緯による。しかし、実際には「ヲランダ」・「紅毛」・「天竺」などに由来すると思われる資料も多数あり、本書ではやや広義的に「博物標本資料」とした。いずれにせよ、現時点では仮称である。
- ・当該資料は、平成18年（2006）八戸市立図書館より移管され、現在は八戸市博物館（収蔵庫内）で保管している。
- ・各資料は元々、木製標本箱またはプラスチック容器等に収納されていたが、現在は元箱の配置を引き継ぐかたちで、中性紙の保存箱に納めている。既刊の当館資料目録『歴史編（7）』収録のミイラ2点（別箱）を含め、計22箱となる。
- ・整理作業においては、各箱のマス毎に任意の整理番号を付け、その順番に沿って一覧を作成した。1つのマスに複数の資料がある場合には枝番としたが、必ずしも関連性を持つものとは限らない。
- ・本書掲載の資料写真の内、特に表記の無いものは館員が撮影し、若干の色補正・トリミング等を行った。なお、見開きで掲載した各箱は、実際には2箱で1つの保存箱に納められている。
- ・整理作業及び本書の編集は、主に歴史分野の担当学芸員 野沢 江梨華・山野 友海が行い、整理作業は 博物館職員 蝦名 孝子・淵沢 裕子が補助した。校正には当館学芸員 小保内 裕之・船場 昌子、八戸市立図書館学芸員 滝尻 侑貴（元博物館学芸員）の協力を得た。

八戸南部家旧蔵「博物標本資料」について

当該資料は、八戸南部家旧蔵とされるが、元々の持ち主や収集の目的・入手経路などについては詳細な記録が無く、実態についてはほぼ不明である。平成18年（2006）八戸市立図書館より当館へミイラ2点（天狗・双頭の人魚）と共に移管され、今日まで収蔵庫で保管されてきた資料群である。

ミイラの所在については、過去の聞き取り調査などから、以下の経緯によるものと推定されている。

【昭和10年（1935）】

南部御屋敷（現・南部会館）の蔵で、当時6歳の八戸南部家14代当主・直敬氏がミイラを実見。

【昭和24年（1949）】

南部家旧蔵の古文書が散逸しかけた際、郷土史家・上杉修氏が私財で購入して保管。

【昭和41年（1966）】

図書館が「上杉修氏所蔵 郷土資料目録 第1巻」刊行。古文書等文献資料のみ掲載。

【昭和42年（1967）】

上杉氏宅が火災に遭い、古文書を市体育館へ搬出。整理後、旧八戸市立図書館へ移して保管。

【昭和49年（1974）】

南部直敬氏・匡慶氏親子が上杉氏宅にてミイラを実見。

【昭和54年（1979）】

上杉修氏死去。

【昭和60年（1985）】

上杉雪子氏が修氏の収集資料を図書館へ寄贈。この時にミイラも寄贈された可能性が高い。

【平成18年（2006）】

2月、図書館より博物館へ移管。10～11月、国立科学博物館へ展示貸出、X線写真を撮影。

上杉氏収集資料の目録刊行及び寄贈時の書類上で確認される資料は古文書類のみであり、その他の資料については詳細不明ながら、当初は南部家の蔵にあったミイラが後に古文書類と共に上杉氏のもとへ移り、やがて図書館へ寄贈されたと考えられている。これはあくまでもミイラの所在に係る推定だが、事実であれば、関連資料と思われる当該資料もまた同様の経緯を辿った可能性が高い。

現在の南部会館は、廃藩置県により八戸城が廃された折、最後の八戸藩主であり南部家9代当主・信順が移り住んだ屋敷で、後に「南部子爵邸」と呼ばれた。その蔵に「ミイラ」が保管されていた点から、藩の公有物ではなく藩主家の私物と推察され、なおかつ、明治初期に東京へ移住した10代当主・栄信が持ち出していない点からは、栄信以前の八戸南部家当主のものと考えられる。

当該資料は、八戸に残る類稀な資料群であるものの、長らく未整理であったために未だ実態の把握には至っていない。収集の目的、入手経路、現存する類例なども未調査である上、いずれの学問分野に属するものなのか、明確な位置付けも定まっていない。科学的な分析を含めた本格調査が当面の大きな課題であり、所蔵館としての活用方法も模索していく必要がある。

また、これらが誰の収集品であったのかも、実際のところは明確でない。蘭癖大名として有名な薩摩藩・島津重豪を実父とする信順が有力視される一方、同時期の「御道具帳」その他の史料からは読み取れず、重豪とも交流があった8代・信真が収集・所有した可能性もある。複数の世代に渡り、複数の人間の手を経由しているとも考えられ、本来の持ち主の解明も今後の課題の1つといえる。



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	
	21			



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	21



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	
			21	



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	
21		22	23	



1	2	3	4	5
6	7			8
9	10	11		12
13	14		15	16
17	18	19	20	21
	22	23	24	25



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	
			21	



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	



1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20



1	2	3	
4	5	6	7
	8	9	
10	11	12	13
	14	15	16



1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20



1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20



1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30



1	2	3	4	
5	6	7	8	
9	10	11	12	
13	14	15	16	
17	18	19	20	
21			22	



1	2	3		
4	5	6		
7	8	9		
10	11	12		
13	14	15		
16	17			

箱 A～D に収納された資料は、一部を除いて丸形のガラス製容器に入れられている。1つ1つに座布団が付き、容器口縁に厚紙を貼り合わせた蓋を乗せ、その上から紐で十字に固定されている。紐は座布団を貫通して結ばれており、破損箇所や弛みがない限り、中身を取り出すことは難しい。

丸形ガラス製容器の大きさはほぼ同一で、高さや幅に若干の差が見られる程度である。形状が異なるのは箱 D 3 資料で、細い首が付いたフラスコのような形をしている。ボトルキャップのような紙製の蓋が詰められており、胴部に糸が掛けられ、座布団に縫い留められている。

それぞれの座布団には色・模様の違いもあるが、生地そのものは同じ素材と思われ、ほとんど同種の布から切り出して製作された印象を受ける。掛けられている糸は、紫色が多く見受けられるが、退色・破損しているものの他、後に補修されたと思われる色違いの糸もある。

当初は、ガラス製容器に紙蓋をし、小さな座布団に紫色の糸で固定した姿で統一されていたと思われる。なお、金色の和紙に名称や分類らしき表記が墨書され、容器胴部に貼り付けられている。欠損したもののにも糊の跡が確認でき、このラベルも当初から共通するものと推定される。

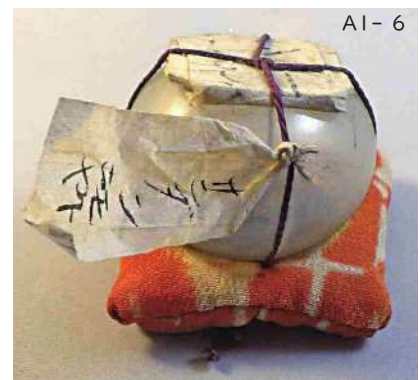
いずれも、内容物を簡単に出し入れできる仕様ではないことから、実用的な素材（薬など）というより、観察や鑑賞の対象物（標本）であったと考えられる。

金色のラベルが剥離したのものには別の和紙を貼り付け、蓋が欠損した場合には同じようなものを作り、容器底部の破損は和紙を張り付けて補修するなど、それなりに手をかけて管理されてきた様子もうかがえる。破損や汚れも少なく、比較的透明度の高いガラスもいくつか見られることから、容器が破損した場合には新品と交換していた可能性もある。

また、これらと同様に糸で座布団に固定された資料は、箱 1～8 の中にも複数確認される。これが、同時期に制作された結果なのか、元の持ち主の手仕事なのか、現時点では判断することができない。標本そのものだけでなく、こうした形態の面からも調査することで、新たな情報が得られることだろう。



当初の姿と思われるもの（破損なし）



補修された形跡があるもの（蓋ほか）



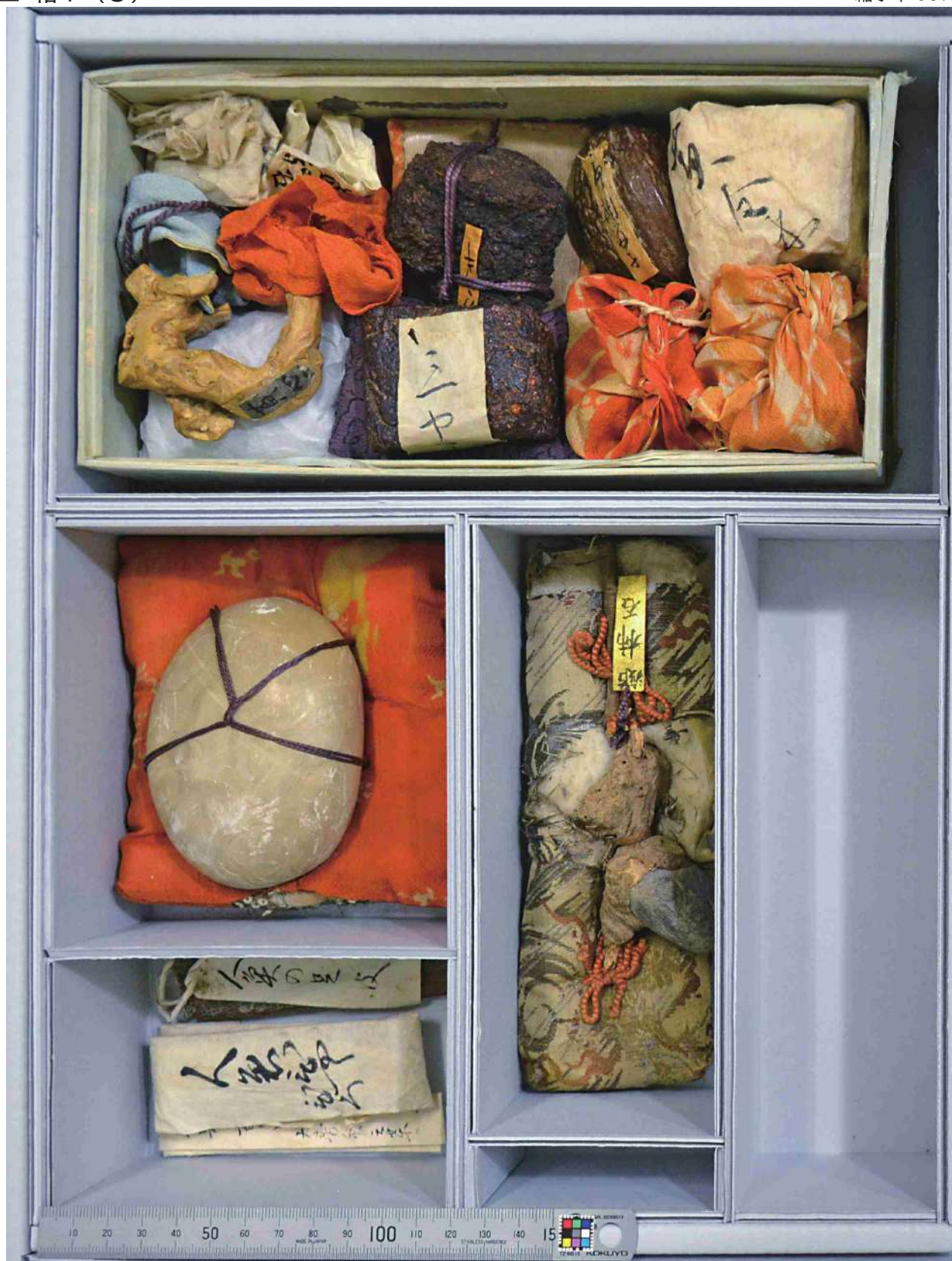
容器の口縁を隙間無く塞ぐため、蓋は径の違う厚紙を貼り合わせた仕様になっている。



1	
2	
3	4



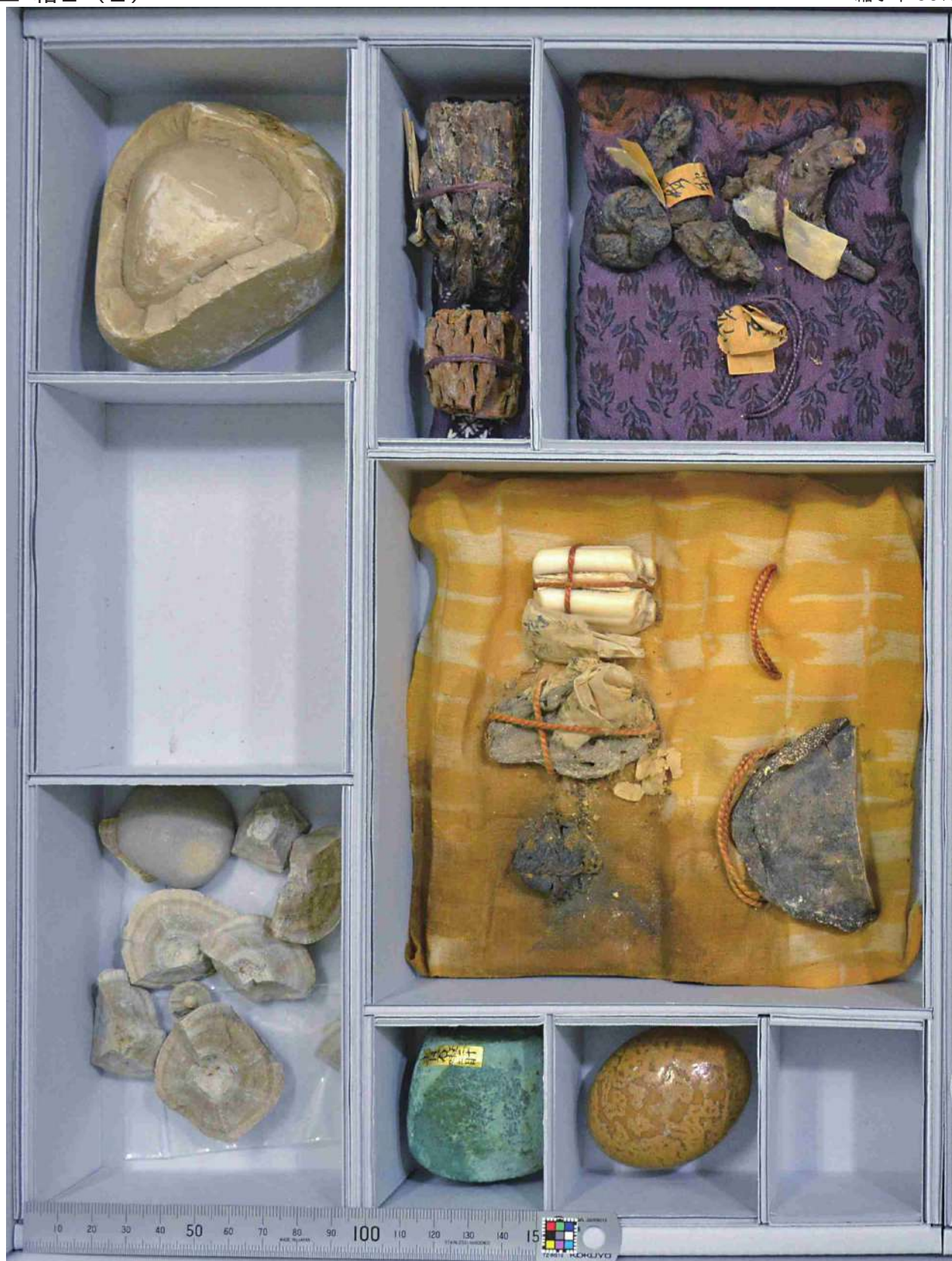
5		
6	7	
8	9	
	10	



11		
12	13	
14		



1	2		
3	4	5	
6	7		



8	9	10
	12	
11	13	14



15			
16	17	18	
19		20	
21	22		



1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	



12	13	14	
15	16	17	
18	19	20	21



22	23	24
25	26	
27	28	
	29	



1		
2	3	4
	5	7
6		



8	9	
10	11	14
12	13	



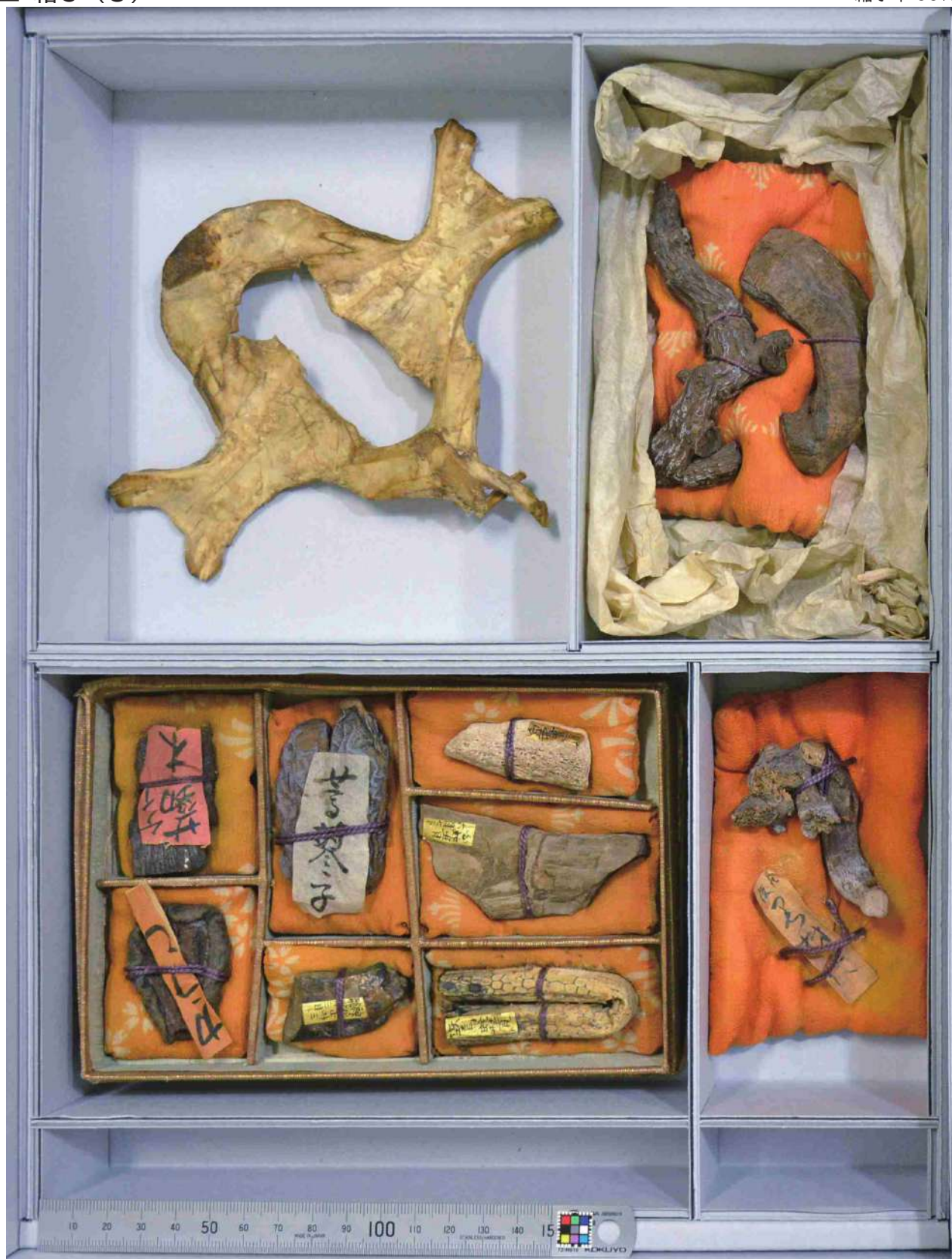
	15	16
	18	19
17	21	
20		



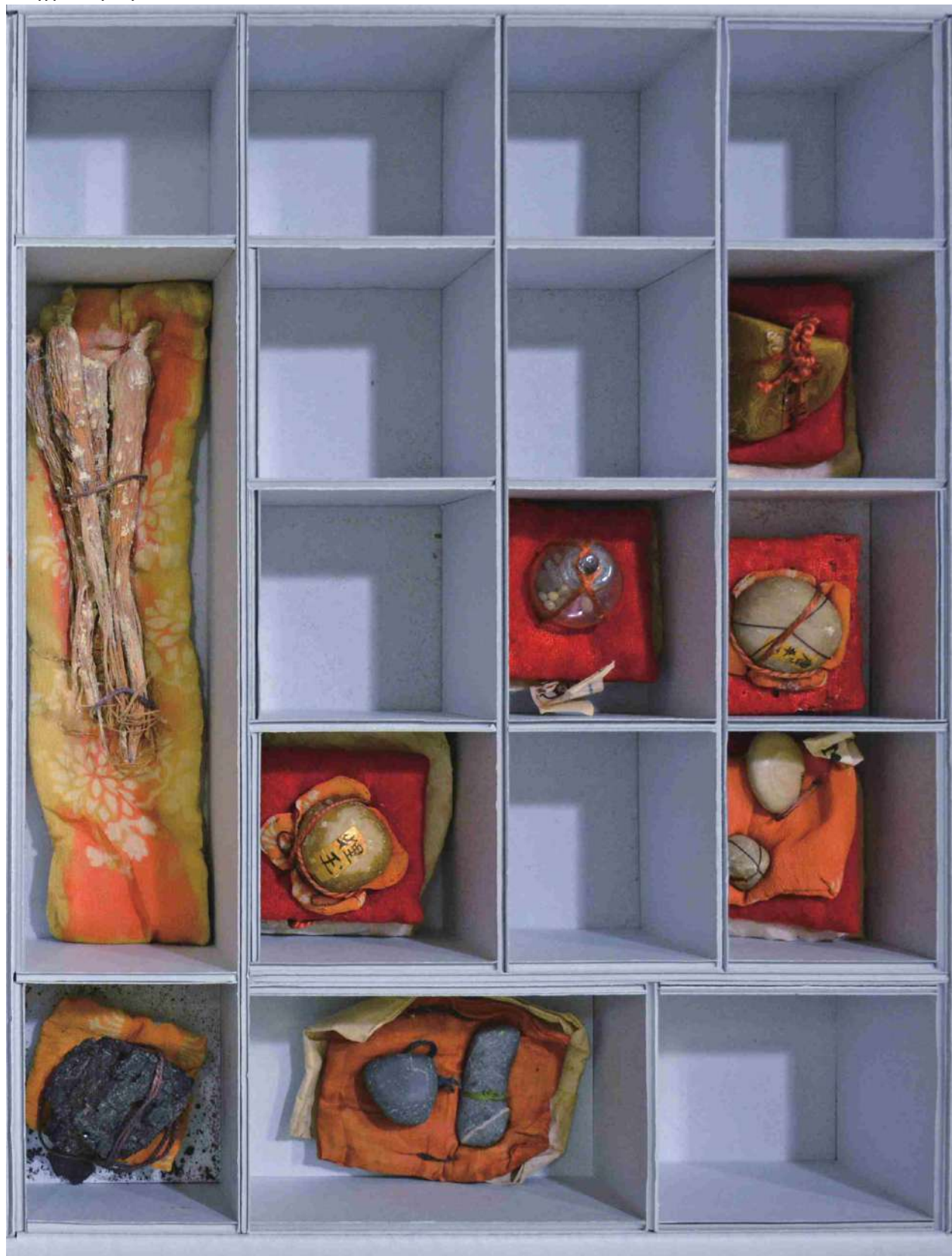
1	
2	3
4	5



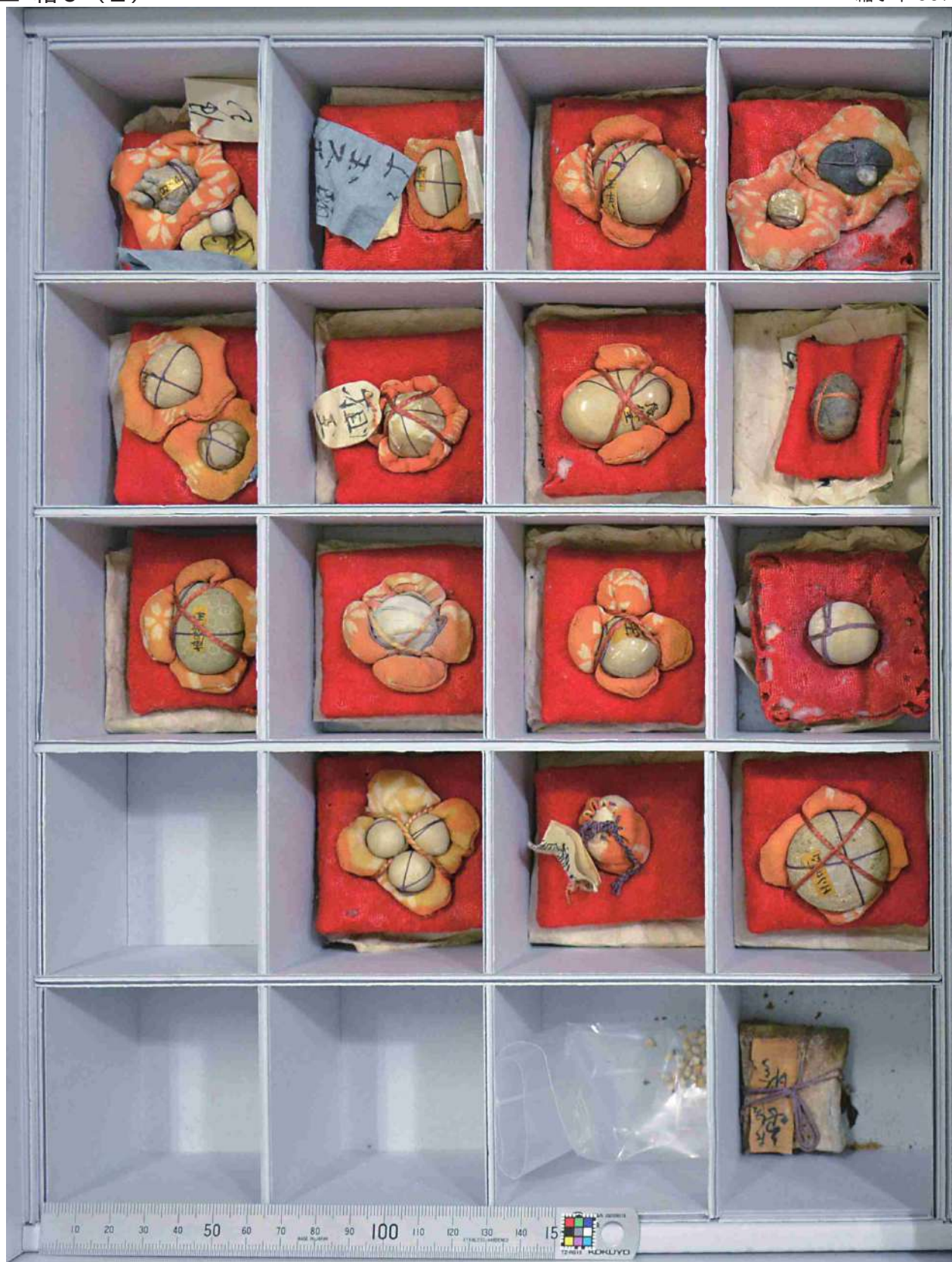
	6	7	8
9	10	11	
12		13	
14	15	16	17



18	19
20	21



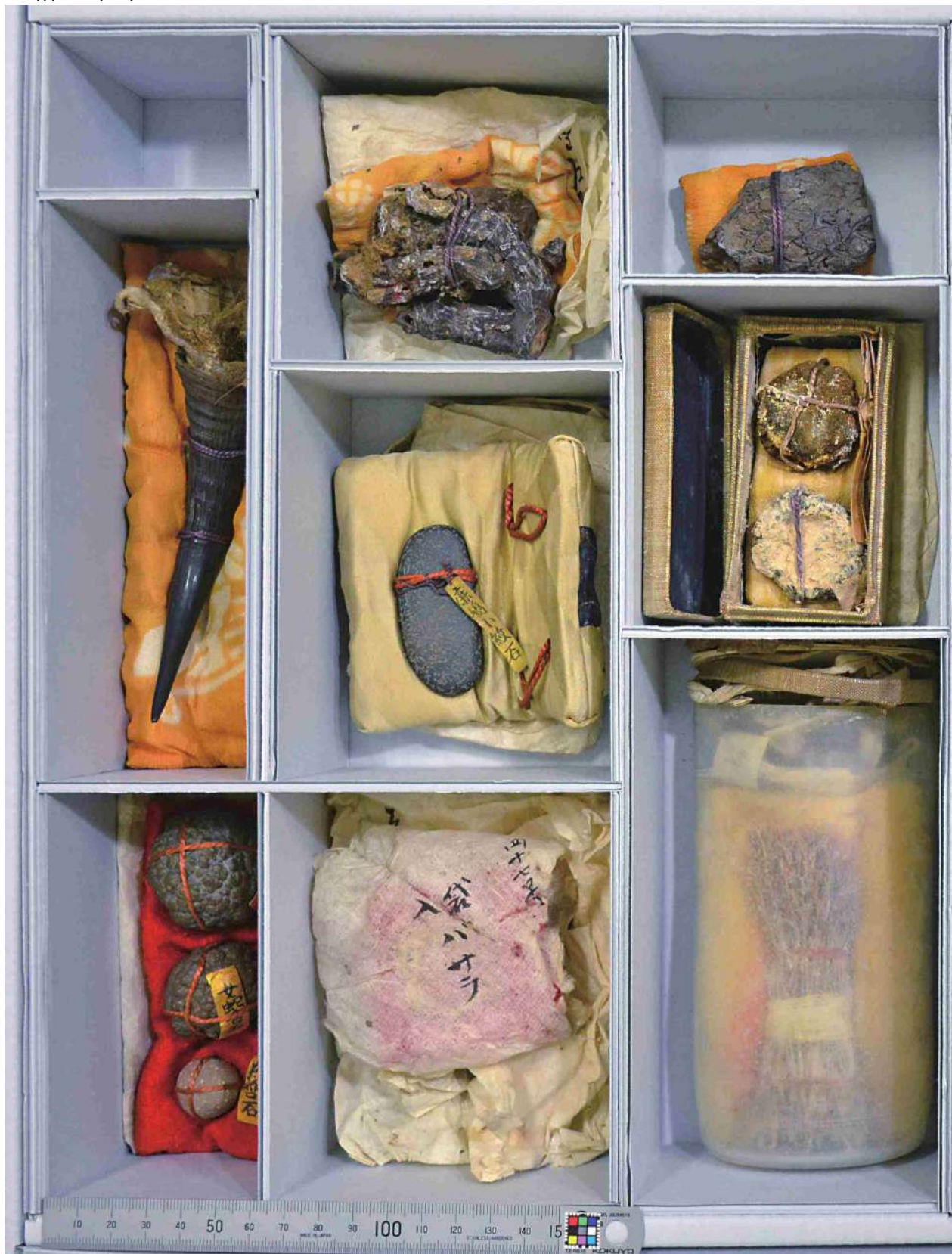
1		3	2
	5		4
7	8		6



9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
	21	22	23
		24	25



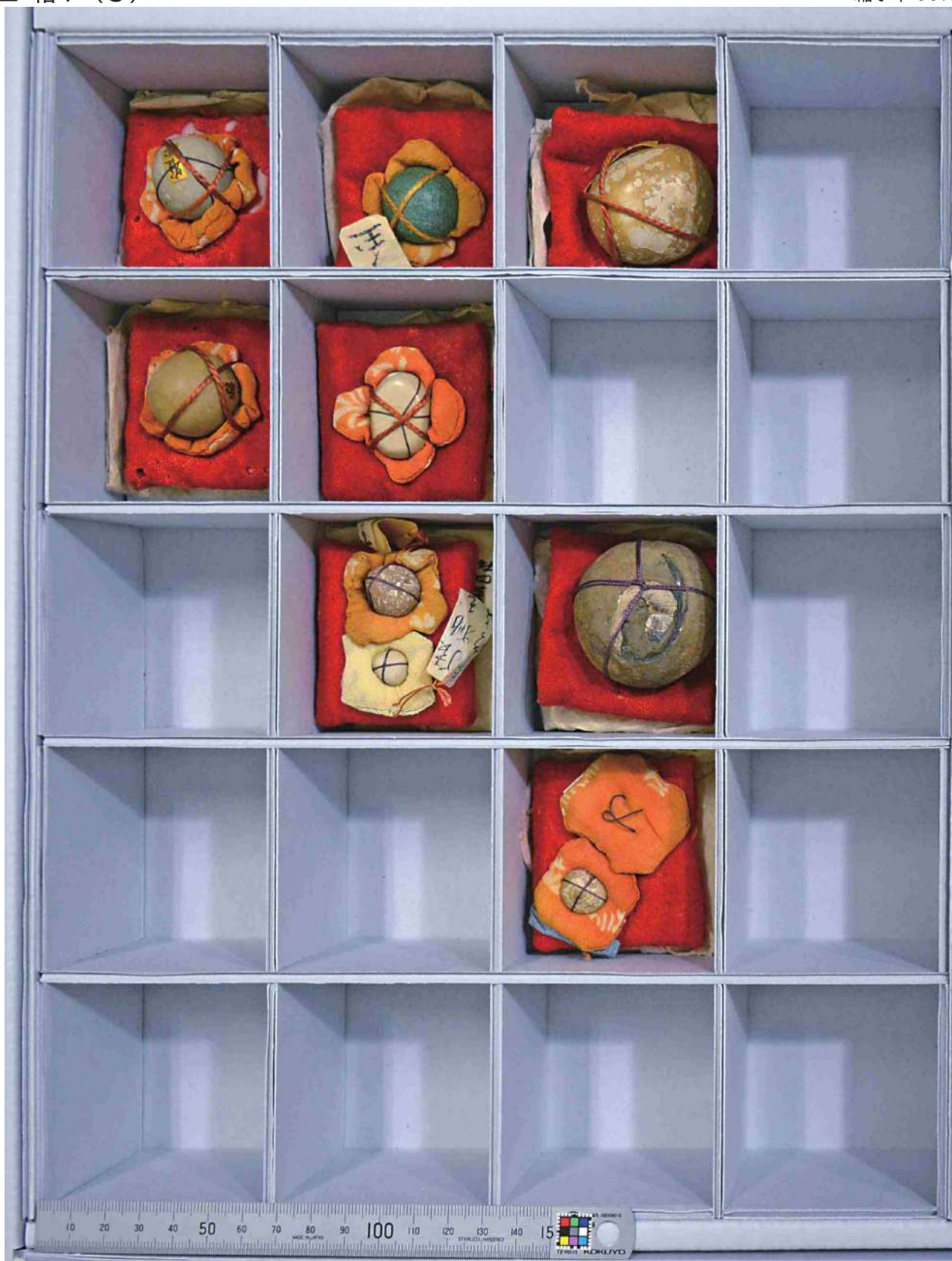
26	27	28
	29	30
31		32
		33



	1	2
3	4	5
6	7	8



9	15
10	
11	
12	
13	
14	



16	17	18	
19	20		
	21	22	
		23	



1	2

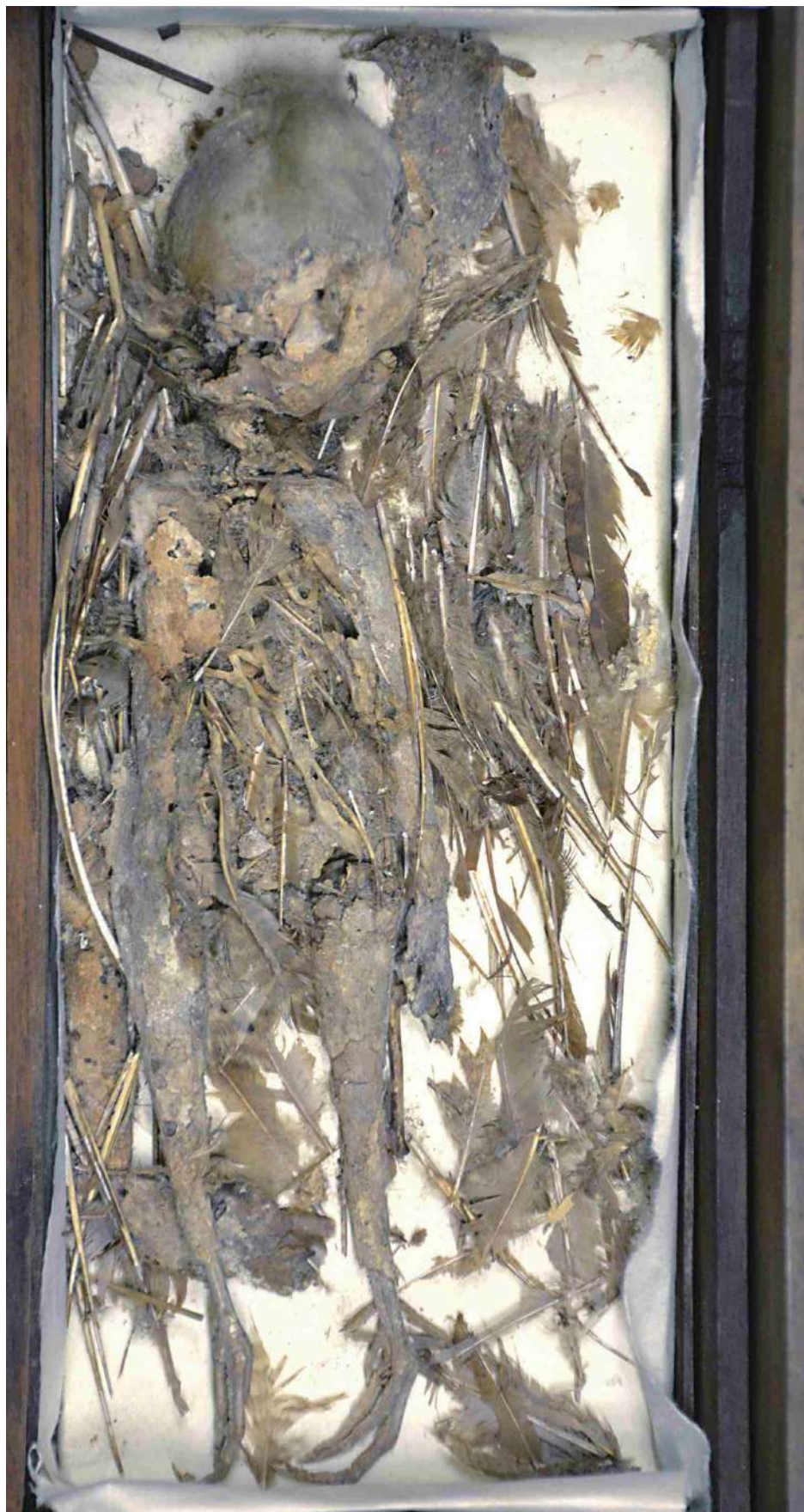


	3
4	5
6	

■ 天狗（ミイラ）

縮小率 80%

※ 頭部はネコの頭骨と張子、胴部はヤマシギ、手はネコの足。箱書きに「日向延岡産 天狗」とある。





八戸南部家旧蔵の本草関係資料として、これまで特に高い注目を集めてきたのが、天狗と人魚のミイラである。特に「双頭の人魚」は、その形状がかなり特異であることに加え、他に「百ヒ口」「足皮」「肉」「ホ子」「頭皮」など人魚関連の本草資料がいくつか見られることから、他館展覧会への貸出や画像利用による公開頻度も比較的高い。

「双頭の人魚」は、国立科学博物館が行ったX線撮影などの調査により、紙の張子の頭に魚の口がはめ込まれ、腕や手指には軸が通り、下半身は棕櫚の木で作られていることが判明している。また、表面に貼り付けられたウロコとヒレは、コイ類のものと同定されている。

正徳5年(1715)刊行『和漢三才図会』の中で、「人魚」は魚類(江海有鱗魚)に分類されており、日本書紀では推古天皇の時代に小児のように魚でなく、人でもなく、何なのかわからないものが摂津の堀江で網にかかったこと、西の大洋に稀にいて、暴風雨の前に現れることなどと併せ、阿蘭陀では骨を解毒薬としていることが紹介されている。同時期に刊行された『大和本草』にも、骨には医薬的に止血の効果があると記されている。

素材としての「人魚」が持つ、不老長寿をはじめとした不思議な効能は、古くから知られていた。中でも有名な「八百比丘尼」伝説の発生は古代にまでさかのぼるともいわれ、類話は全国に散見される。江戸時代にはしばしば疫病除けとして「人魚の瓦版」が流行し、幕末期には見世物として「人魚の干物」が人気を博したといい、素材としてだけでなく、その姿形も注目されてきた存在である。

明治6年(1873)刊行『萬國通商往来』には、多種多様な品物に混じって「人魚」も掲載されている。同書は海外との通商における品物の名称をまとめた本で、その中に「人魚」が挿絵入りで掲載されている点からは、そうした“不思議なモノ”もまた当たり前取引される対象であり、実際にそれらが海外へも流出していたことをうかがわせる。海外への輸送は特に長時間・長距離であることを考慮し、それらはおそらく「干物」として出荷されたことだろう。

人魚、天狗、鬼といった“不思議なモノ”のミイラは、国内でいくつか確認されている。単に「ミイラ」といえば『本草綱目』や『本草弁宜』などでは遺体(人間)を指し、『紅毛雑話』にも挿絵がある。薬として扱われるが、その稀少価値故に高値で取引されることから、時には極めて高度な偽装によっても“獲得”され、流通してきた。

人魚にせよ天狗にせよ、ミイラという乾燥標本には、本草学や医学・薬学的な知見から、あるいは見世物や信仰の対象として、モノの真贋はさておき、古くから熱い視線が注がれてきた。八戸南部家旧蔵のミイラは、産地が明示されていること(天狗)、関連資料が他にも存在すること(人魚)が特徴の1つでもあり、見世物や信仰対象とは違う側面から捉えることができる資料といえる。



『倭漢三才図会』より「人魚」



『萬國通商往来』より
「人魚」挿絵(上)・品名(下)



『紅毛雑話抜書』より「木乃伊」

■ 資料一覧

凡例

- 当該資料の整理番号は「箱番号－マス番号（枝番）」と表記する。
- 「内容」は、ラベルや紙片などに記載された文字の情報である。次の通り分類した。
 - 〔イ〕 金ラベル：金色の紙片で、本体に直接貼られているもの。（剥離・欠損あり）
 - 〔ロ〕 紙ラベル：金色でないが、〔イ〕 とほぼ同様の用途と思われるもの。
 - 〔ハ〕 紙タグ：紙縫りや糸で結びつけられた紙片。貼られていないもの。
 - 〔ニ〕 紙片ほか：紐の隙間に挟み込まれているなど、上記イ～ハに分類されない紙片。
 - 〔ホ〕 包紙・外箱：本体を梱包しているもの。複数点同梱の場合、枝番（1）の内容として記載。
- 判読不明な文字は「■」とし、推定の文字数で表記した。また、推定される文字は（ ）で記載した。
- 記載があると想定されるが破損・虫損などにより判読不能・文字数不明の箇所は「★★★」とした。
- 剥離した別ラベル・紙片の混入、古紙の転用などにより、本体と「内容」が無関係の可能性もある。
- 寸法はいずれも大まかな数値で、布・綿・箱などの厚みを含む場合もある。箱 A1～D3 資料の寸法は主にガラス製容器の外寸である。
- 本体の採寸が困難な場合は外箱などの寸法を測定した。また、破損資料については推定の数値とし、いずれも（ ）で表記した。
- 「破損」は、取り扱いにおいて特に注意を要するもの。破損・汚損・虫損・劣化のほか、糸の弛みなども含む。
- 当該資料は燻蒸済みで、簡易的なクリーニングを済ませているが、個別の保存処理などは行っていない。



通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
1	A1-1			φ 38		31		
2	A1-2		〔イ〕 古渡紫石風拾一目	φ 41		37	○	
3	A1-3			φ 36		31		
4	A1-4			φ 40		40		
5	A1-5		〔イ〕 古渡雲母正味三分風五目四分	φ 40		32	○	中に別のラベルあり
6	A1-6		〔ハ〕 サンダン七分二ヤ	φ 40		35		
7	A1-7		〔イ〕 古渡雲母正味二目四分凡七目 / 紅毛古渡苦辛正味一目風四目七分 / 古渡白石脂風五目八分				○	複数カ（破損・原形なし）、元の位置不明
8	A1-8			φ 40		34	○	
9	A1-9		〔ハ〕 古渡天竺大豆風六目	φ 35		26		
10	A1-10		〔ハ〕 ユウセイ 〔ニ〕 コクセイ	φ 37		36		
11	A1-11		〔ハ〕 薛艸根 〔ニ〕 薛艸根	φ 40		41		ガラス尖底、内容物 38 × 20 mm 「薛」＝ハマスゲ
12	A1-12		〔イ〕 ★★★ 〔ニ〕 ■内■五匁酒井家	φ 37		36		B4-15「酒井家」、D2-14「酒井家」と同家カ
13	A1-13		〔イ〕 古渡唐石卵 / 正味三目凡七目七分	φ 36		31		
14	A1-14		〔ロ〕 寄子 〔ハ〕 寄子	φ 38		40		
15	A1-15		〔イ〕 古渡石燕四枚風九目二分 〔ロ〕 石燕	φ 40		35		
16	A1-16		〔イ〕 古渡今子ゴク上々風五目五分	φ 35		31		
17	A1-17		〔イ〕 古渡石フン正味セツ凡四目八分	φ 35		30		
18	A1-18		〔イ〕 古渡龍膠正味四目六分凡十一目五分	φ 40		41	○	
19	A1-19		〔イ〕 ★★★正味★★★目	φ 41		41		
20	A1-20			φ 40		35		
21	A1-21		〔イ〕 古渡湖実正★★★					本体なし（元の位置不明）
22	A2-1		〔イ〕 古渡白石脂凡四目五分 〔ロ〕 白石脂	φ 35		35		内容物2点の内1点に紙ラベル
23	A2-2		〔ロ〕 ★★★凡七目	φ 38		37	○	
24	A2-3		〔ハ〕 ■蘭粉	φ 40		43	○	蓋に墨書あり
25	A2-4		〔イ〕 古渡シンイ正味三目五分凡七目五分	φ 35		32		
26	A2-5		〔イ〕 古渡赭石正味一目五分風五目一分	φ 38		32		
27	A2-6		〔ハ〕	φ 37		32		記載なし（白紙）
28	A2-7		〔イ〕 古渡漢代赭石正味二目五分 〔ロ〕 蘭産代赭石	φ 40		38	○	
29	A2-8		〔イ〕 柳李仁正一目五分風五目七分	φ 34		31		
30	A2-9		〔イ〕 風十三目三分	φ 39		35		
31	A2-10		〔ロ〕 古渡■■■■■味一目三分風五目六分	φ 38		37	○	補修痕あり
32	A2-11		〔イ〕 古渡★★★正味★★★目風拾一目一分	φ 41		42		
33	A2-12		〔イ〕 古渡石仁正味二目風五目五分	φ 36		37		
34	A2-13		〔イ〕 古渡金鐙正味六目九分風十一目 〔ロ〕 金鐙	φ 38		34		
35	A2-14		〔イ〕 古渡花石英央正味四目五分風九目	φ 39		39		
36	A2-15		〔イ〕 古渡天竺石絨正味一目五分風六目三分	φ 39		47	○	
37	A2-16		〔イ〕 古渡天竺黄正味二目風五目	φ 35		34		
38	A2-17		〔ハ〕 紅華李之 / 紅華■■二ミツ〇	φ 40		41	○	
39	A2-18		〔イ〕 ★★★	φ 40		32	○	別個体混入の可能性あり
40	A2-19		〔イ〕 ★★★目	φ 40		37		
41	A2-20		〔イ〕 古渡赤石脂風八目	φ 39		37	○	
42	A2-21		〔イ〕 古渡鶏冠苔正味五分風五目 / 古渡天竺ヒヤクンシ風タイ五目 / 古渡天浮石正二目風六目 / 風七目三分				○	標本4種、ラベル4点、元の位置不明
43	A3-1		〔イ〕 ★★★	φ 37		34	○	
44	A3-2		〔ハ〕 トクヒシ 〔ロ〕 トクヒシ	φ 45		45		
45	A3-3		〔イ〕 古渡■■■■一枚 / ★★★廿五目	φ 38		37	○	
46	A3-4		〔イ〕 古渡■■■正味二目五分	φ 37		33		
47	A3-5		〔イ〕 風九目五分	φ 40		33	○	
48	A3-6		〔イ〕 古渡天竺子蛤石六ツ / 風五目	φ 35		33		内容物6粒

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
49	A3-7		〔イ〕 古渡天竺玄石風四目一分 〔ロ〕 玄石	φ 36		35		
50	A3-8		〔イ〕 古渡鼓情神風六目一分	φ 41		35		
51	A3-9		〔イ〕 古渡天竺ムクロジ	φ 35		35		B4-13「天竺」、A4-12「高麗」、A4-19「唐」ムクロジ
52	A3-10		〔イ〕 古渡金光石正味十一目五分風十六目三分	φ 39		38		
53	A3-11		〔イ〕 古渡小日生樹正味七分風五目三分	φ 39		33		
54	A3-12		〔イ〕 風九目六分 〔ロ〕 滑石	φ 38		34		
55	A3-13		〔イ〕 古渡決明子正味四目五分風十目三分	φ 38		39		
56	A3-14		〔イ〕 古渡黒狸正味一目八分風五目七分	φ 38		34		
57	A3-15		〔イ〕 風四目二分	φ 34		35		
58	A3-16		〔イ〕 古渡辛夷正味一目風六目三分	φ 39		33		
59	A3-17		〔ハ〕 天■馬五ツ	φ 38		47	○	
60	A3-18			φ 40		39		
61	A3-19		〔イ〕 古渡紅毛船丹	φ 35		30	○	補修痕あり
62	A3-20		〔イ〕 朝鮮自然金砂 / 正味三目一分風八目八分	φ 40		31	○	内容物（本体）無しカ
63	A3-21		〔イ〕 風七目 / 古渡キン毛正味四目八分 / 古渡紅毛銀錦正味八目五分				○	標本1種2点
64	A4-1		〔ハ〕 唐■子 〔ニ〕 唐■子	φ 43		45		
65	A4-2			φ 38		38	○	
66	A4-3		〔イ〕 古渡天葵正味四目風四目五分	φ 38		39		
67	A4-4		〔イ〕 古渡朝鮮船錫一ツ / 風五目一分	φ 34		31		底部に補修痕あり
68	A4-5		〔ハ〕 夏■子 〔ニ〕 夏■子ハツ	φ 34		40		
69	A4-6		〔イ〕 古渡紫石英正味一目五分 / 風六目 〔ロ〕 紫石英	φ 36		33		
70	A4-7		〔イ〕 古渡朝鮮貝姿一ツ風四目九分	φ 37		34	○	
71	A4-8		〔イ〕 古渡木食子正味五分風五目二分	φ 35		37		
72	A4-9		〔イ〕 古渡蛤二枚風五目六分	φ 37		37		
73	A4-10		〔イ〕 古渡白龍骨正味七分風五目五分	φ 37		35	○	
74	A4-11		〔イ〕 古渡コンタ三ツ風四目	φ 32		32		
75	A4-12		〔イ〕 古渡高麗ムクロジ / 風五目一分	φ 35		32		A3-9・B4-13「天竺」、A4-19「唐」ムクロジ
76	A4-13		〔ロ〕 ★★★	φ 36		34	○	
77	A4-14			φ 38		40	○	補修痕あり（一部剥離）
78	A4-15		〔イ〕 古渡伏肝正六分風四目五分	φ 33		32		
79	A4-16		〔イ〕 古渡舶来石 / 正味二目九分風七目二分	φ 38		37	○	
80	A4-17		〔イ〕 古渡砂古風七目六分	φ 38		35		
81	A4-18		〔イ〕 古渡高盤照風八目五分	φ 35		33		
82	A4-19		〔イ〕 古渡唐ムクロジ風四目九分	φ 34		32		A3-9・B4-13「天竺」、A4-12「高麗」ムクロジ
83	A4-20		〔ハ〕 唐茅根	φ 41		43		
84	B1-1		〔イ〕 ★★★風十六目一分	φ 40		29	○	
85	B1-2		〔イ〕 古渡南扁青正味一目五分風五目九分 〔ロ〕 扁青	φ 38		37		
86	B1-3		〔イ〕 ★★★正味二目七分風六目七分	φ 42		39	○	
87	B1-4		〔イ〕 紅毛★★★ / ★★★目★★★五分	φ 36		37	○	
88	B1-5		〔イ〕 古渡水錫正味三目三分風八目二分	φ 36		32	○	
89	B1-6		〔イ〕 古渡乳香 / 正味一目五分風六目五分	φ 38		33		
90	B1-7		〔イ〕 琉球金牙正味六目風十目六分	φ 38		33		
91	B1-8		〔イ〕 古渡狸々毛風四目八分	φ 38		34		
92	B1-9		〔イ〕 古渡天竺川棟三枚 / 風六目七分	φ 38		32		
93	B1-10		〔イ〕 古渡古史君正味一目風七目一分	φ 42		43		
94	B1-11		〔イ〕 古渡赤石英風九目五分	φ 38		39	○	
95	B1-12		〔イ〕 古渡自然陽正二目七分風六目七分	φ 35		32		
96	B1-13		〔イ〕 古渡蛇骨正味二目風七目	φ 41		34		
97	B1-14		〔イ〕 ★★★十三目四分	φ 40		41	○	
98	B1-15		〔イ〕 古渡阿仁扁青正味五分 / 風射四目五分 〔ロ〕 ★★★	φ 35		35		
99	B1-16		〔イ〕 古渡安息香正味一目五分	φ 38		35		
100	B1-17		〔イ〕 古渡唐柏樹子風六目	φ 40		37		
101	B1-18		〔イ〕 古渡方解石正味六目八分 / 風十一目七分	φ 37		34		
102	B1-19		〔イ〕 古渡赤礫正味八目風十三目六分	φ 38		37		
103	B1-20		〔イ〕 古渡巴旦朶風三目八分	φ 35		35		
104	B1-21		〔イ〕 ■■■★★★ / 風五目八分				○	標本4種、ラベル2点、元の位置不明
105	B1-22			42	42	21	○	
106	B1-23		〔ハ〕 古渡り新心	52	52			座布団のみ（本体なし）
107	B2-1		〔イ〕 唐土丹頂鶴頭玉 〔ロ〕 鶴頭石	(46)	(37)	(17)		4粒
108	B2-2		〔ニ〕 錦液子	φ 46		43	○	
109	B2-3			φ 43		40	○	
110	B2-4		〔イ〕 ★★★	φ 37		34	○	
111	B2-5	(1)		48	8			
		(2)		23	16			
112	B2-6						○	座布団のみ（本体なし）
113	B2-7		〔イ〕 古渡天竺芋環二本風四目七分	φ 39		35		
114	B2-8	(1)		24	27			標本2粒
		(2)		24	13			標本1片
115	B2-9		〔ハ〕 レイキー	φ 40		32		
116	B2-10		〔ホ〕 家へ脚間から下友ちゃんおいしい事したと思テ	45			○	古紙転用カ
117	B2-11	(1)		20	15			白色
		(2)		19	8			黒色
118	B2-12	(1)						標本破片のみ
		(2)		10				標本8粒

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
119	B2-13		〔ハ〕 ニヨカイシ 〔ニ〕 ヨカイシ	φ 40		35		
120	B2-14		〔ハ〕 古渡阿魂正味三目五分	31	25			
121	B2-15		〔ロ〕 ★★	φ 38		40	○	紐は後補カ
122	B2-16	(1)		21				
		(2)		28				
123	B2-17			25	15		○	
124	B2-18		〔ハ〕 古渡産石英正味三目八分	31	18	19		
125	B2-19		〔ハ〕 地床屑カントウ渡 〔ニ〕 地床屑カントウ渡	φ 40		44	○	
126	B2-20		〔ロ〕 キリンロシ	53	26	23		
127	B2-21	(1)						標本2粒
		(2)		28	13			標本2片、寸法は最大
128	B2-22		〔ハ〕 古渡り軟石膏正味貳分九分	32	23			
129	B2-23		〔ロ〕 古渡天木瓜	28	30	30	○	
130	B2-24		〔ロ〕 露子	39	25		○	
131	B2-25			32	15	17		
132	—		〔ハ〕 巴凌タヘルトドク / トロイクミ 〔ニ〕 大丁子正之両 ■ / 巴凌 / 巴凌タヘルトドク / ★★ ■ / 古渡り軟葉根 / ★★ / ア キヤウ古渡極上物之由め ■ ■ ■ ハ見せ候				○	紙片など9点、 いずれも元の位置不明
133	B3-1		〔イ〕 古渡キトツヒ正味六分凡五目一分	φ 39		37		
134	B3-2		〔イ〕 古渡草決明風十四目四分	φ 38		41		草決明＝決明子（ケツメイシ）
135	B3-3		〔イ〕 古渡霊仙正味★★	φ 39		43		
136	B3-4		〔イ〕 風七目★★	φ 37		39		
137	B3-5		〔イ〕 古渡山茨菇 / 正味二目七分風七目	φ 37		35		
138	B3-6		〔イ〕 古渡蟠亀正味六枚風五目	φ 38		37		
139	B3-7		〔イ〕 古渡銀スイコ / 正味八目風十二目六分	φ 41		36		
140	B3-8		〔イ〕 古渡胞浮石正味二目風六目三分 〔ロ〕 肌浮石	φ 38		36		
141	B3-9		〔イ〕 ★★五目三分	φ 40			○	内容物 29 × 22 mm
142	B3-10		〔イ〕 古渡 ■ ★★ 味一 ★★ / 風六目二分	φ 37		34		
143	B3-11		〔イ〕 古渡馬兜冷風五目九分	φ 38		38		
144	B3-12		〔イ〕 古渡阿仁銅鑛十一目六分 〔ロ〕 阿仁銅鑛	φ 39		36	○	内容物6片（内1片にラベル有）
145	B3-13		〔イ〕 古渡蚕天子正味一目五分 / 風四目五分	φ 37		34		
146	B3-14		〔イ〕 古渡天姜白正味二目 / 風六目九分	φ 38		35		
147	B3-15		〔イ〕 古渡フラタイブ正味二目風七目五分	φ 38		40	○	
148	B3-16		〔イ〕 ★★	φ 38		37	○	内容物5片
149	B3-17		〔イ〕 古渡天松子正味二目五分 / 風七目	φ 38		37		
150	B3-18		〔イ〕 ★★	30	22	25	○	ガラスは補修後に再度破損カ
151	B3-19		〔イ〕 古渡ト★★	φ 37		38	○	
152	B3-20		〔イ〕 古渡金鈴子正味一目五分	φ 38		36		
153	B3-21						○	標本5種同梱、元の位置不明
154	B4-1			φ 38		39	○	
155	B4-2		〔ハ〕 グシラシミツ	φ 38		35		
156	B4-3		〔ハ〕 フランタガンカ 〔ニ〕 フタンタガンカ	φ 38		40	○	内容物2点
157	B4-4		〔ハ〕 古渡り唐砂人	φ 38		43		
158	B4-5		〔イ〕 古渡松有仁正味二目五分	φ 37		37	○	内容物3点
159	B4-6		〔ハ〕 双無類蕪貴子ミツ 〔ニ〕 双無類蕪貴子ミツ / 古渡り唐砂人	φ 39		45		
160	B4-7		〔ロ〕 ■ ■ ■	φ 39		40	○	内容物2点、ラベルは内容物に貼付
161	B4-8		〔イ〕 風躰七目	φ 42		47		
162	B4-9		〔ハ〕 勾留姜	φ 41		33		
163	B4-10		〔ハ〕 天垢 〔ニ〕 天垢	φ 39		45		内容物2点
164	B4-11		〔ハ〕 初橘	φ 38		43		
165	B4-12		〔ハ〕 朝鮮 ■ 拵子日本二而かやの 〔ニ〕 朝鮮 ■ 拵子日本二而かやのミ	φ 40		40		
166	B4-13		〔ハ〕 天竺むくろし 〔ニ〕 天竺むくろし	φ 38		42	○	A3-9「天竺」、A4-12「高麗」、A4-19「唐」ムクロジ
167	B4-14		〔イ〕 ★★	φ 38		40	○	
168	B4-15		〔ハ〕 唐慈菇内五ツ酒井家へ 〔ニ〕 唐慈菇内五ツ酒井	φ 38		45	○	A1-12「酒井家」、D2-14「酒井家」と同家カ
169	B4-16		〔ハ〕 古渡リトランニ	φ 36		32		
170	B4-17		〔イ〕 古渡正真龍齒風十四目	φ 38		42		
171	B4-18		〔イ〕 ■ 大君茸目★★	φ 38		42	○	
172	B4-19		〔ハ〕 ウラン	φ 38		43		
173	B4-20		〔ハ〕 陳昌子ニツ 〔ニ〕 カラ斗之痛ミニツプレセンジテ呑ソク ■ ニナラル	φ 41		42	○	
174	C1-1		〔ハ〕 荔棗	φ 44		45		
175	C1-2		〔イ〕 古渡海豹膽ミツ風六目六分	φ 42		38		
176	C1-3		〔ハ〕 ■ 壳	φ 44		45		
177	C1-4		〔ハ〕 琉 ■ 〔ニ〕 琉 ■	φ 44		48		
178	C1-5		〔イ〕 古渡湖実正味一目風八目二分	φ 42		42		
179	C1-6		〔ハ〕 シトロ 〔ニ〕 シトロ	φ 44		47		
180	C1-7		〔イ〕 古渡甘蘭五ツ風十目八分	φ 43		41	○	
181	C1-8		〔ハ〕 ヒセンシ 〔ニ〕 ヒセンシ	φ 45		45		
182	C1-9			φ 42		43	○	内容物3点
183	C1-10		〔ハ〕 ロシン 〔ニ〕 ロシン	φ 40		44		
184	C1-11		〔ハ〕 玉場花 〔ニ〕 玉場花	φ 44		45	○	

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
185	C1-12		〔ハ〕 クシニ■	φ 43		45		
186	C1-13		〔ハ〕 雲天■ 〔ニ〕 霖天■	φ 42		47	○	内容物 32 × 25 mm
187	C1-14		〔ハ〕 サシミ 〔ニ〕 サシミ	φ 45		47		
188	C1-15		〔ハ〕 クシキ 〔ニ〕 クシキ	φ 43		47		
189	C1-16		〔ハ〕 錦■子	φ 43		47	○	内容物2点
190	C1-17		〔ハ〕 古渡り無類畜■子	φ 43		53	○	内容物2点
191	C1-18		〔イ〕 古渡紅毛★★★丸■風拾目	φ 43		52	○	
192	C1-19		〔ハ〕 リキンヒ	φ 39		39		
193	C1-20		〔イ〕 古渡白石印正味二目八分風七目	φ 41		37		
194	-		〔イ〕 蛇木正味五拾七目五分 / 蘭梅■玉■房正味二目八分 / 古渡ムクマンス正味四目七分 / 玉砂子正味拾一目九分 / 古渡龍骨正味拾一目五分 / 古渡犀角爪正味四ツ二■二目■ / 唐二而水物梅風八目 / 唐■ ■ / 渡バサラ / 雷之玉 / ■バ■ ■ / 古渡ヘイ★★★ 〔ニ〕 タイヨテイ / 津蟹 / サンキョクシ / 桑螺 / 蒺藜■				○	ラベル 17 枚 (C1・C2 資料より剥落カ)
195	C2-1		〔イ〕 古渡■ ■ ■風■ ■ ■	φ 44		47	○	
196	C2-2		〔イ〕 古渡角辰正味六目三分風九目一分	φ 45		47	○	
197	C2-3		〔ハ〕 ■筋三ツ 〔ニ〕 無類■筋三ツ	φ 43		46	○	
198	C2-4		〔ハ〕 破胡子	φ 43		47		
199	C2-5		〔イ〕 古渡白蛇脂正味三目三分 / 風九目	φ 40		41		
200	C2-6		〔イ〕 古渡防已正味二目八目五分	φ 44		50		
201	C2-7		〔イ〕 古渡■鱗血風■目 / 古渡胡■苔三本 / 風躰五目	φ 40		38		
202	C2-8		〔イ〕 古渡雲光石正味二目五分風九目	φ 41		42	○	
203	C2-9		〔ハ〕 古渡り相披玉 〔ニ〕 古渡相披玉 中	φ 39		45	○	
204	C2-10		〔イ〕 古渡不灰木風十一目 〔ロ〕 不灰木	φ 40		42	○	
205	C2-11		〔イ〕 古渡角膠正味二目風九目八分	φ 43		46		
206	C2-12		〔イ〕 古渡肉ツク風九目八分	φ 40		41		
207	C2-13		〔ハ〕 ケンニン 〔ニ〕 ケンニン	φ 43		47		
208	C2-14		〔イ〕 古渡乳石風十目四分	φ 40		43	○	内容物2点
209	C2-15		〔イ〕 古渡★★★	φ 37		38	○	内容物あり (見えず)
210	C2-16		〔ハ〕 沙■実 〔ニ〕 沙■実廿一	φ 43		47		
211	C3-1		〔ニ〕 ■■■アビシヤ眠ノ■薬 / セイ法■ハロ中江入事無用■■■アヒシヤ	φ 48		52	○	補修痕あり
212	C3-2			φ 45		51		貼紙痕跡あり
213	C3-3		〔イ〕 古渡王不留行風拾目	φ 45		51	○	
214	C3-4		〔イ〕 ★★★羅系正★★★目■分 〔ニ〕 古渡羅糸	φ 48		50	○	
215	C3-5		〔イ〕 古渡寒水石正味十二目三分風十目	φ 47		48	○	補修痕あり (剥離)
216	C3-6		〔イ〕 古渡唐小豆風九目九分	φ 46		52		
217	C3-7		〔ハ〕 鬼眼■十六 〔ニ〕 鬼眼■十六	φ 47		46	○	内容物 16 粒
218	C3-8			φ 45		51		
219	C3-9		〔ハ〕 古渡鱗鱗	φ 47		50		ふた後補
220	C3-10		〔イ〕 古渡正真上々猪実子風十八目	φ 47		50		
221	C3-11		〔ハ〕 唐燕子 〔ニ〕 ★★★唐燕★★★	φ 48		52	○	鳥類のヒナカ
222	C3-12		〔イ〕 古渡紅毛コロエア★★★ケル共 〔ハ〕 古渡紅毛コロエアナケル共 〔ニ〕 唐二而水陽梅風八目	φ 46		50		
223	C3-13		〔イ〕 古渡猪牙★★★五目■分	φ 43		45	○	
224	C3-14		〔イ〕 古渡唐★★★風★★★	φ 46		48	○	座布団・ふた後補カ
225	C3-15		〔イ〕 古渡花随石正味五目風十一目八分	φ 44		47	○	補修痕あり
226	C3-16		〔イ〕 古渡破■石正味■ ■分風十一目八分	φ 45		51	○	補修痕あり
227	C3-17		〔ハ〕 古渡■ ■ ■ 〔ニ〕 古渡唐■ ■	φ 48		51		
228	C3-18		〔ハ〕 大丁子				○	ほぼ原形なし (推定 φ 45 × 50 mm)
229	C3-19		〔イ〕 古渡召良姜正味三目五分風九目五分	φ 45		53		
230	C3-20		〔イ〕 古渡胡黄蓮正味四目五分風十三目六分	φ 48		53	○	
231	C4-1		〔イ〕 金亀齡 / 亀石数五風十七目	φ 45		50	○	
232	C4-2		〔ロ〕 ヒロウシ 〔ハ〕 ヒロウシ	φ 45		47	○	
233	C4-3		〔イ〕 古渡唐青牛ノ内肉風九目五分	φ 45		49		
234	C4-4		〔ニ〕 母石■	φ 45		46	○	
235	C4-5			φ 45		46	○	破損のため寸法は推定
236	C4-6		〔イ〕 風八目四分	φ 41		44		
237	C4-7		〔ハ〕 朴子	φ 43		46		
238	C4-8		〔イ〕 古渡陽起石正味三目六分	φ 40		43		
239	C4-9		〔イ〕 古渡紅毛★★★	φ 41		49	○	
240	C4-10		〔イ〕 古渡硫黄正味七目五分風十四目	φ 46		47		
241	C4-11		〔ハ〕 戸杓子十七 〔ニ〕 戸杓子十七	φ 47		47		
242	C4-12		〔イ〕 古渡タカラコウ風七目三分	φ 44		50		
243	C4-13		〔イ〕 古渡 (桑) 蟬蛸正味一目六目一分	φ 43		46		桑蟬蛸=カマキリの卵鞘
244	C4-14		〔イ〕 古渡マンタラケ風七目三分	φ 44		47		5-14「天竺マンタラケ」
245	C4-15		〔イ〕 古渡漢巴正味四目五分風十一目七分	φ 48		46	○	
246	C4-16		〔イ〕 古渡本雷光石正味三目五分風十六目六分	φ 43		50	○	
247	C4-17			φ 43		48	○	
248	C4-18			φ 44		46	○	
249	C4-19		〔ハ〕 キメンシ 〔ニ〕 キ■ン■	φ 43		47		

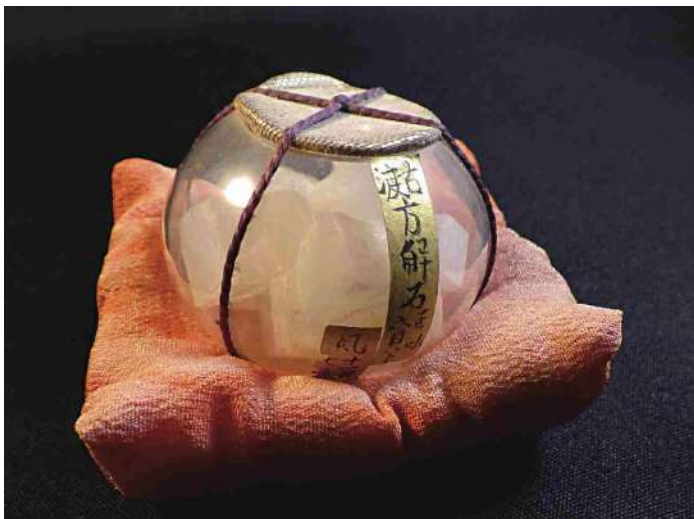
通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
250	C4-20			φ 45		46		
251	D1-1		〔イ〕 古渡天覆盆風五目六分	φ 43		39		
252	D1-2		〔ロ〕 燕■石	φ 44			○	
253	D1-3		〔ハ〕 辛荊	φ 40		37		
254	D1-4		〔ハ〕 紅毛橘子	φ 43		45		
255	D1-5		〔ハ〕 トケン	φ 43		34		
256	D1-6		〔イ〕 古渡丹吳三ツ風五目一分	φ 37		38		
257	D1-7			φ 42		39	○	
258	D1-8		〔ハ〕 テウセンガンカ	φ 44		40	○	
259	D1-9		〔イ〕 ★★★風★★★一分	φ 41		40	○	
260	D1-10		〔イ〕 古渡石花風七目五分	φ 40		32		
261	D1-11		〔イ〕 古渡蛤鮮玉正味六分凡五目八分	φ 40		27		
262	D1-12		〔ハ〕 古渡り珊堂■	φ 44		43		
263	D1-13		〔イ〕 古渡錦石英正味六目風★★★	φ 42		39	○	
264	D1-14		〔ハ〕 服■■■■	φ 44		43	○	
265	D1-15		〔イ〕 古渡金古渡大金牙	φ 39		29	○	
266	D1-16		〔ハ〕 古渡り甘莪子	φ 41		35		
267	D1-17		〔ハ〕 ロコシ	φ 44		34		
268	D1-18		〔ハ〕 テイセウヒ	φ 42		35		
269	D1-19		〔イ〕 古渡南京★★★、風十二目七分	φ 43		38	○	
270	D1-20		〔ロ〕 古渡狸々	φ 39		33	○	
271	D1-21		〔ハ〕 唐古渡寄盆子	φ 43		34		
272	D1-22		〔イ〕 風★★★目★★★分、★★★正味三目五分	φ 42		41		
273	D1-23		〔イ〕 ★★★正味★★★目一分	φ 43		41	○	内容物無しカ
274	D1-24			φ 41		38	○	
275	D1-25		〔イ〕 古渡カリロク風正味三目一分七目八分	φ 43		39		
276	D1-26		〔ハ〕 吳杜子	φ 45		40		
277	D1-27		〔ハ〕 昌天實	φ 40		35		トチの実カ
278	D1-28		〔イ〕 古渡猿猴爪凡五目二分	φ 43		35		内容物に虫害あり
279	D1-29		〔イ〕 古渡寒黒藻正味二目五分、風七目二分	φ 42		36		
280	D1-30		〔ハ〕 シトロ根	φ 44		35		
281	D2-1		〔ハ〕 チンチン	φ 44		38	○	蓋後補カ
282	D2-2		〔イ〕 古渡天鳥梅正味三目風七目五分	φ 45		41		
283	D2-3		〔ハ〕 古渡大唐■子	φ 43		43		
284	D2-4		〔ハ〕 セイム	φ 42		32		
285	D2-5		〔ハ〕 サンタ	φ 42		38		
286	D2-6		〔ハ〕 英仁	φ 40		38	○	
287	D2-7			φ 47		41		
288	D2-8		〔ハ〕 天使君	φ 40		38		
289	D2-9		〔イ〕 古渡★★★正味二目凡七目一分	φ 39		32		
290	D2-10		〔ハ〕 朝鮮■子	φ 39		30		
291	D2-11			φ 43		39		
292	D2-12		〔ハ〕 古渡東京枳実	φ 44		43	○	
293	D2-13		〔イ〕 古渡漢紫石正味二目五分凡六目五分	φ 38		34		
294	D2-14		〔ハ〕 カクサウ内■酒井家へ	φ 43		30		A1-12「酒井家」、B4-15「酒井家」と同家カ
295	D2-15		〔イ〕 古渡唐香附子正味二目凡六目四分	φ 40		36		
296	D2-16			φ 49		39	○	
297	D2-17		〔イ〕 正味二目八分凡七目	φ 39		24	○	
298	D2-18		〔イ〕 古渡赤油脂風八目八分	φ 42		36		
299	D2-19		〔ハ〕 谷紫生	φ 43		36		
300	D2-20		〔ハ〕 ■原	φ 42		33		記載・内容物なし
301	D2-21		〔イ〕 正味二目五分 凡七目五分					ラベルのみ、D1 いずれかの剥離カ
302	D2-22		〔イ〕 古渡筋鶏冠石風 十二目三分					ラベルのみ、D2 いずれかの剥離カ
303	D3-1			φ 37		-	○	
304	D3-2		〔イ〕 ■■■★★★九分	φ 37		37	○	内容物なしカ
305	D3-3			φ 37		43		
306	D3-4		〔イ〕 ★★★シルト風三目一分	φ 35		30		蓋は後補カ
307	D3-5			φ 36		36	○	内容物は種子カ
308	D3-6		〔イ〕 ★★★■■★★★正四分	φ 37		38	○	
309	D3-7		〔イ〕 ★★★■■★★★	φ 37		37	○	
310	D3-8			φ 37		38	○	
311	D3-9		〔イ〕 古渡★★★	φ 36		43		
312	D3-10			φ 36		40		
313	D3-11		〔ロ〕 スイコ	φ 36		38	○	
314	D3-12		〔イ〕 古渡竜肝風三目	φ 32		36		
315	D3-13			φ 32		30		蓋に墨書「ハ」カ
316	D3-14			φ 31		34		
317	D3-15		〔イ〕 正真人旦★★★目八分	φ 31		34		
318	D3-16		〔イ〕 (古) 渡色旦茸風三目六分	φ 33		35		
319	D3-17		〔ロ〕 ★★★ウ★★★	φ 36		37		
320	1-1	(1)	〔イ〕 青石正味十三目四分	53	44	9		
		(2)	〔イ〕 唐呂桂子 〔ニ〕 唐呂桂子正二勾二分女陰門ノ内カエミツヨキ時少々土■ニ而黒焼ニシテ陰門ノ中エツケル尤少々宛ケツリ黒焼ニシテヨロシ日本ノ品ナラバ月桂子ト云也	39	33	32		紙片 92 × 39 mm
		(3)		33	35	27		
		(4)		65	35	27		
321	1-2	(1)		112	41	13		
		(2)		46	38	24		
		(3)		49	32	22		
322	1-3			(103)	(77)	(53)		箱入り、ガラス片あり

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
323	1-4	(1)	〔ハ〕 ホツコン	66	38	22		
		(2)	〔ハ〕 半鼻	42	25	25		
		(3)	〔ハ〕 古渡無類赤新爪 一ツ	57	22	18		ナマコカ
		(4)	〔ハ〕 古渡無類奴會子	38	30	17		
324	1-5	(1)	〔イ〕 オランタ五分ヒシ正味五リ	28	41	22		
		(2)	〔イ〕 高麗藻玉正味三目七分 〔ハ〕 王冷根	35	33	17		
		(3)	〔イ〕 南京福州石拾三目六分	31	31	25		
		(4)	〔イ〕 赤石脂正味拾目七分 〔ハ〕 オランタ香角明	46	32	22		
		(5)	〔イ〕 古渡廻口正味六目七分	103	30	20		
		(6)	〔イ〕 古渡天梯仁正味二目九分	28	31	17		
		(7)	〔イ〕 南京古渡ウロヨウ正味五目七分	30	36	21		
		(8)	〔イ〕 極古渡黒千木正味四目八分	42	26	19		
		(9)	〔イ〕 筋鶏冠石正味拾五目	47	22	16		
		(10)		64	21	21		
		(11)	〔ハ〕 ■釜子	47	30	28	○	
		(12)	〔イ〕 正味二目二分	48	44	18		
325	1-6			58	51	42		
326	1-7			55	53	44	○	
327	1-8			103	95	29		
328	1-9		〔イ〕 猿★★★	31	28	10		
329	1-10		〔イ〕 古渡★★★	42	42	39		
330	1-11	(1)		92	54			
		(2)	薬物津蟹ホウソウ山アラケカ子(ネ)シ時婦末シテ用懸目一分水 吞セル	140	95		○	包紙のみ
		(3)	毒吸石二ツ	15	13	5		包紙 74 × 75 mm
		(4)		19	14			2点、寸法は最大 (小: 15 × 7mm)
		(5)	〔ロ〕 黄心	59	47	31		
		(6)		19	17	4		
		(7)	〔ロ〕 青玉根目方十一匁	58	44	30		
		(8)	〔ロ〕 ミヤライ	45	53	38		
		(9)		88	57			甲殻類の足カ (1点付属)
		(10)	〔ロ〕 クウキ	48	47	43		
		(11)	〔ロ〕 唐胡蚰子	58	42	39	○	
		(12)	〔ハ〕 名王可ら須	40	33	25		「名わからず」
		(13)	〔ハ〕 目方四匁二分黄金木一切 / 黄金木	37	33	17		
		(14)	〔イ〕 古渡虎眼正味一目五分風拾一目七分	43	43	36	○	
331	1-12			82	63	42		
332	1-13		〔イ〕 古渡柿石	128	40	32	○	
333	1-14	(1)	〔ハ〕 人魚足皮	90	24			
		(2)	人魚ひやくひろ	13	6		○	包紙二重 (紙・竹皮)、百尋 (ヒヤクヒロ) ≒ 小腸カ
		(3)	人魚ノ肉				○	本体フレーク状
		(4)	人魚ノ百ヒロ極まれなるもの大寿命之薬	13	9		○	包紙二重 (紙・竹皮)、百尋 (ヒヤクヒロ) ≒ 小腸カ
334	2-1	(1)	卅号人面石 / 人面石	24	23			
		(2)		38	30	22	○	座布団の裏に紙あり
335	2-2		〔イ〕 人魚牙正味八目五分	81	60	27		ハクジラ種の歯カ
336	2-3		〔ハ〕 仇祖波	62	50	26		
337	2-4		〔ハ〕 古渡り回青橙	60	35	25	○	
338	2-5		古渡り广子つ	60	36		○	折り畳まれている状態
339	2-6							座布団類のみ (本体なし)
340	2-7	(1)		50	20	16		サンゴカ
		(2)	〔イ〕 人魚★★★	68	18	15	○	箱 124 × 78 × 39 mm、ラベル「人魚爪」位置不明
		(3)		94	20	19		オキゴンドウの歯カ
		(4)		75	25	29		カモシカの角カ
341	2-8		〔イ〕 熊之■★★★	55	86	73	○	オキゴンドウの歯カ
342	2-9	(1)	〔ハ〕 紅毛朴子	55	30	32		玄能石 (ノジュール型) カ
		(2)		31	26	27		
343	2-10	(1)	〔ハ〕 古渡舛指根	54	55	22		
		(2)	〔ハ〕	46	47	19		紙タグ白紙
		(3)	〔ハ〕 ★★★雲仙根					紐のみ (本体なし)
344	2-11			41	35	17		破片 11 点、寸法は最大、玄能石 (ノジュール型) カ
345	2-12	(1)	〔ハ〕 唐背タイマ■背	36	25			紙 1 枚が (2) との間に挟まる
		(2)	〔ハ〕 壺両三步 / 岳鼈舌	49	38		○	紙 2 枚
		(3)		25	25		○	
		(4)		66	35			
346	2-13		〔イ〕 青石正味二十二目	42	47	41		
347	2-14			49	38	29		
348	2-15			245	34	28		部分的に滑らか (加工痕カ)
349	2-16		〔イ〕 麻子正味二目	48	23			
350	2-17			56	41	33		
351	2-18			45	33	22		
352	2-19		〔木〕 虎ノ眼・若■ / 廿号猿玉 / 卅七号玉産石・■ ■ ■ 井坂 四 ■ ■					包紙のみ 3 点、元の位置不明
353	2-20			71	53			厚さ最大 22 mm
354	2-21			50	22			2 点 (紙縫りでまとめられている)
355	2-22			67	30	25		周 101 mm
356	3-1		〔ハ〕 アン■ツニ	42	27	15		
357	3-2		〔イ〕 古渡羊丸頭正味二目風十目六分					
			〔ハ〕 古渡羊丸頭正味二目 / 風十目六分	34	31	9	○	
358	3-3			66	20			

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
359	3-4	(1)	〔イ〕凝水石正味四目六分	59	11			3点、寸法は最大
		(2)	〔イ〕★★★(牛)膠■■★★★	34	30			
360	3-5		〔ハ〕天木香	78	21	11		
361	3-6	(1)	〔イ〕★★★テンジ■■★★★	38	27	22		
		(2)		39	26	12		
362	3-7		〔ハ〕古渡り白防己	90	22	19		「防己」カ
363	3-8			118	33	17		海綿カ
364	3-9		〔ハ〕唐天社	61	17			
365	3-10		〔ニ〕古渡り■■壽鱗三枚	31	22			3点、寸法は最大
366	3-11			18	15	12		
367	3-12		〔ハ〕火盗除華豚爪ーツ 〔ホ〕火盗除華豚ノ爪 沓	55	26	9		
368	3-13			57	37		○	貝類破片カ、寸法は最大
369	3-14		〔ロ〕人魚二竹骨有	25	22			サンゴ類
370	3-15			93	48	20	○	サメ類の卵殻カ、内容物あり
371	3-16			108	65	13		イノシシの牙カ
372	3-17		〔ロ〕藻襴 ※ふりがな「ソウヒン」	42	18	11		
373	3-18		〔イ〕白亀玉	(44)	(37)	(15)	○	
			〔ハ〕古渡り白亀玉大小四ツ					
374	3-19	(1)		38	19			灰色
		(2)		34	18			茶色
375	3-20		〔ロ〕人魚ノヒヤクヒロ	55	25	13		百尋(ヒヤクヒロ) ≡ 小腸カ
376	3-21			95	30	11		
377	3-22			35	7			
378	3-23		〔イ〕古渡拂々之午	(90)	(75)			容器φ 66、ニホンザリガニカ
379	3-24			73	66			
380	3-25			26	24			容器φ 79、3-26と同一カ、カマキリの卵鞘(桑蝶蛾)
381	3-26			32	30			容器φ 79、3-25と同一カ、カマキリの卵鞘(桑蝶蛾)
382	3-27		〔ニ〕千貫志 沓足 小児■■高風病症病勞ヲ治ス廣東ノ瀧ニ落中ニ生ス日本ニ而も布川の渡有之候由至而小形ニましニ■日光ニも■方證者た満々居候由取■か多く和者者ニ寸計御座候	90				状1枚 64 × 91 mm
			〔ホ〕千貫志					
383	3-28			14	14			
384	3-29			23	13			鉱物の剥片カ
385	4-1	(1)	〔ニ〕トセン	35	25			
		(2)		70	45			
386	4-2			(φ 57)				カブトムシの幼虫カ
387	4-3		〔イ〕古渡無竜★★★天珪★★★ 〔ニ〕正味四勾龍砂真珠天珪蛤二アリ無類古渡り	(φ 66)				ガラス製容器
388	4-4		〔イ〕★★★蟹★★★				○	4個体カ
			〔ニ〕古渡ハ黒し中渡ハ白し					
389	4-5		〔イ〕古渡天蛤白廿二★★★	(φ 66)				ガラス製容器
390	4-6		〔イ〕酸模根ワン名ニテシユシリシリ正味二目九分	65	44			
			〔ニ〕楠					
391	4-7	(1)		(49)	(26)			2点
		(2)		47	38			
		(3)		53	36			
392	4-8			50	20	20		5点、寸法は最大
393	4-9		〔イ〕紅毛チクモウシ正味拾五目 / 天竺★★★	(50)	(115)	(38)	○	硝子片・箱破損部品
			〔ニ〕紅毛チクモウシ 〔ホ〕寿八月十五日御■■久おい遍一■■用■■					
394	4-10			31	22	18		3点
395	4-11		〔ホ〕名五知	70	49	29		
396	4-12		〔ニ〕正真人陰茎囊 / 二本之内一本辛卯四月賣				○	包紙に癒着
397	4-13		〔ハ〕盃三十一個	56	40	44		
398	4-14		〔イ〕天竺■■供鳥之足正味七目也	140	45	30		
			〔ホ〕天竺■■供鳥乃足					
399	4-15	(1)	〔イ〕★★★リンクボウ二本ニテ正味一目九分 / 極★★★	52	9			
		(2)	〔イ〕極無類リンクボウ正味二本ニテ五目	41	12			
400	4-16		〔ホ〕極請合正真ヲツセイタケイン数式本	80				2点
401	4-17			67	30	20		
402	4-18		〔ホ〕古渡り亀板	128				紙に癒着
403	4-19		〔ハ〕改貳五貳番					木箱・蓋破損カ
			〔ホ〕土八番入開運石越前吉崎浦山産筆舛タケリ					
404	4-20			41	42	22		
405	4-21		〔ロ〕阿蘭陀冬虫夏舛式疋 〔ホ〕冬ノ虫夏ノ虫式ツ梨子地まきえ御者こ入	68				包紙の中に蔴絵箱、蓋裏に貼紙
406	5-1	(1)	〔ホ〕御細工者こ	(52)	(62)	(27)	○	綿にくるまれている
		(2)	〔ホ〕名分ら須牙	43	36	21		
		(3)	〔ロ〕人魚頭皮 〔ホ〕人魚頭皮	112	35	15		綿にくるまれている
		(4)	〔ニ〕■■閨 / 遠有造之	(66)	(56)	(30)		
		(5)	〔イ〕古渡漠天鹿乃子正味一目五分	55	17	18		
		(6)	〔ホ〕大極上品梅花龍腦御か■■■	49	84	32		
407	5-2		〔ホ〕春日形楽琵琶弦 〔小袋〕御香具所■■御きゆら能油 江戸三田一町目大黒屋大和製	φ 60				7束+小袋入り(7束)
408	5-3	(1)		16	19		○	
		(2)	〔ホ〕人魚之骨 / 海鶏魚皮咽 和名ニンギョノホ子 蛭名ヘノシム	34	24			
		(3)	レロ	45	17			
409	5-4	(1)		41	30	20		
		(2)		67	50	41		
410	5-5		〔ニ〕天梔子	67	31	14	○	
411	5-6		〔ロ〕古渡り紫桑根					不明紙片3点
			〔ニ〕尺蠖 / 水巳					

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
412	5-7		[ホ] 人魚牙	27	40	14		肉食動物 (イヌ・イタチ系) 幼体の牙カ
413	5-8			54	73	13		象 (ナウマン系) の歯カ
414	5-9							一個体が折損カ (継いで長 33)
415	5-10		[イ] 阿蘭陀シヤモウロリ柳子生正味三目七分		45	50		合わせて長 56
416	5-11		[イ] 人魚ノ骨正味★★★ [ホ] 人魚ホ子	75	40		○	本体一部剥離 トビエイの骨カ
417	5-12		[ホ] カヤンプ	35	26	18		
418	5-13			47	61	28	○	
419	5-14		[ロ] 天竺マンタラケ	39	33	21		C4-14「古渡マンタラケ」
420	5-15		[イ] フランタ紅針鈿正味七目二分	56	44	13		
421	5-16		[ホ] 人魚爪 / 壽	61	9	13		
422	5-17			45	29	23		
423	5-18			165	145	2 ~ 4		カメの背骨カ
424	5-19	(1)		92	47	20		
		(2)		80	38	23		
425	5-20	(1)	[ニ] 勤木	44	26	17		
		(2)	[ニ] 蒿蓼子	60	20	18		寸法は最大
		(3)	[イ] 白龍骨正ミニ目三分 [ロ] 古渡白龍骨	45	18	12		
		(4)	[イ] 白蛇骨六目七分	71	30	16		
		(5)	[ニ] カラン ー	42	30	13		
		(6)	[イ] 神代龍骨正味三目三分	39	21	16		
		(7)	[イ] 天竺烏蛇正味二目一分	59	23	18	○	特に裏面劣化 (虫害カ)
426	5-21		[ロ] 古渡黒材仁	61	38	37		1点欠損カ
427	6-1			150			○	4点
428	6-2		[イ] 唐獅々之玉 [ホ] 卅二号唐獅■之玉	37	40	47		
429	6-3		[ハ] 砂利 [ホ] 卅四号舍利	φ 28		43		硝子瓶、錦石カ
430	6-4		[イ] 唐水卒玉	31	29	36	○	
431	6-5		[イ] 狸玉 [ホ] 卅三号狸之玉	30	30	35	○	
432	6-6		[イ] 羊玉 [ハ] 古渡り羊玉 [ホ] 十六号羊玉二ツ	26	20	23		2点、寸法は最大
433	6-7			40	40	35	○	紐外れ、剥落
434	6-8		[ホ] 開運石 御望次★★★捌 甲州 雨 (畑) ★★★硯乃當國 産葡萄石細工所 諸國珍名寄續駿府七間町二丁目 文★★★■ 屋半★★★	22	20	15	○	寸法は外れている個体
435	6-9	(1)	[イ] 月玉 [ハ] 月玉一ツ玉の方 [ホ] 月玉 海龜玉 六号	22	16	25		
		(2)	[ハ] 極上ノ方海龜玉二ツ	φ 8			○	3点 (黒2点の糸外れ)
436	6-10	(1)	[ハ] ■■■ノ真隨龍爪玉といふ玉スイ [ホ] 鯉玉 龍爪玉 七号 寅十月十一日花紋ちりめん御■ 寅五月 福印■	22	16			
		(2)	[イ] 鯉玉 [ハ] 唐鯉玉	21	13			
437	6-11		[イ] 次羊玉 [ハ] 古渡り次羊玉 [ホ] 十四号 次羊石 / 御目久毛■	29	25	31	○	
438	6-12	(1)	[ホ] 十三号 人頭玉 人ノ酢答 [ハ] 人ノ酢答	11	11		○	酢答 (さとう) = 胆石 / 腸内結石 = ペイサラバサラ
		(2)	[ハ] 人頭玉と	23	17			
439	6-13	(1)	[イ] 犬玉 [ホ] 十二号 犬玉 鹿呑玉	21	19			
		(2)		14	16			
440	6-14		[ハ] 祖玉 [ホ] 祖玉 四号	21	20			
441	6-15		[イ] (猿猴) 玉 [ホ] 猿猴玉 二号	34	22			
442	6-16		[ニ] 文政七甲申卯月中井上次郎右衛門より至来在所鶺鴒之者 鶺鴒之内ニ有之候由ニ而持參次郎右衛門江遣候ヲ自分江差出ス [ホ] 九号 無名石	21	16			「井上次郎右衛門 (治郎右エ門)」は八戸藩士、文政7年 (1825) 時点で江戸勤番。8代藩主・南部信真 (同年4月4日江戸着) へ献上カ。
443	6-17		[イ] 唐獅玉 [ニ] 古渡り唐玉 [ホ] 唐獅玉 三号	29	24			
444	6-18		[イ] 石腸 [ハ] 石腸五分 / 品玉 [ホ] 十一号 石腸	22	19			
445	6-19		[イ] 猿玉 [ホ] 猿玉 五号	20	19			
446	6-20		[ホ] 十五号★★★石	23	20		○	
447	6-21		[ホ] 十号 無名石三個	13	14			3点 (寸法は内1点)
448	6-22		[ハ] 白頭鳥頭ニ有之玉 [ホ] 一号 白頭鳥					布小袋入り、座布団 50 mm 四方
449	6-23		[イ] エンコウ玉 [ホ] 八号 猿猴玉	32	31			
450	6-24							別の資料から零れた中身 (種子) カ
451	6-25		[ニ] 古渡り亀膠	44	36	7	○	剥落あり
452	6-26						○	座布団 81 × 60 mm
453	6-27			53	12			2点 (元は3点カ)、寸法は最大
454	6-28		[イ] 古渡狸々之玉 / 日本三ツ之内 [ホ] 拾九号 狸々ノ玉	59	49			
455	6-29			80	8	4	○	折損あり
456	6-30		[イ] 古渡人腹之玉 [ホ] 卅一号 人腹之玉	54	50	45		

通番	整理番号		内容	寸法 (mm)			破損	備考
	No.	(枝番)		タテ	ヨコ	高さ		
457	6-31	(1)	〔ロ〕 ■桐根 〔ホ〕 波御古き方 御細工者こ / 李有造之	76	60		○	固着して箱から出せず
		(2)	〔二〕 クシウヒ ー	66	28		○	固着して箱から出せず、紙片は (3) の付属カ
		(3)	〔二〕 渡し時五丁硯出ノ来 ウイキヤウ日本渡年物者千年■成	54	50	15	○	紙片に英字あり (展開不能 / ドイツ語カ)
458	6-32		〔二〕 馬糞石 水氣ノ妙薬此一味を粉ルしてさゆにて用一分位用 小水スミヤ★★★也 〔ホ〕 卅八号 馬糞石	57	57	46		
459	6-33			120	64		○	キノコ (菌類) カ
460	7-1		〔二〕 亀寄子ー / 古渡り / タカラカ■根	67	50	42	○	紙片2枚 (内1点は癒着して取れず)
461	7-2			55	36	25		
462	7-3		〔イ〕 南京羊泉角正味六目八分	144	54	32		
463	7-4		〔イ〕 鹿島小紋石 〔ホ〕 鹿島小紋石 壺 玉流し御■家 / 京焼御小古瓶ー	55	25	10		元は2点 (1点欠) カ
464	7-5	(1)	〔二〕 古渡り大眼桐 〔ホ〕 御細工者こ / ■正味七目	30	32		○	紙片2枚 (内1点は破損)
		(2)		36	32			
465	7-6	(1)	〔イ〕 男蛇含石 〔ホ〕 四十三号 男蛇含石 女蛇含石 蛇含石	39	38			
		(2)	〔イ〕 女蛇含石	33	30			
		(3)	〔イ〕 蛇含石	20	22			
466	7-7		〔ホ〕 吉印御用物 / 拾二号 唐水犀玉 / 四十七号 袋入バサラ	-	-	-		包紙・座布団のみ (本体なし)
467	7-8		〔ハ〕 二五式番 / 御備附同所御目の■ / 京加■引と多りニ而江戸表へハッ時頃御光■■四月三日 / 宗■左	(142)	(77)	(44)	○	紙縫りは古紙転用カ、寸法は硝子瓶
468	7-9			φ 15		8		
469	7-10			17	14	6		
470	7-11			24	16			
471	7-12			26	24	22		3点、寸法は最大
472	7-13			45	28	25		
473	7-14			82	44	35		中空、ネコザメの卵殻カ
474	7-15	(1)	〔ハ〕 モウル黄芩	69	10			2点
		(2)		58	22			
		(3)	〔二〕 古渡りウンチ	109	14			
		(4)					○	劣化激しく原形不明
		(5)	〔二〕 アスカン	56	34			
		(6)		61	32			
		(7)		44	25		○	反り
		(8)	〔二〕 カウキライ					紙片のみ
475	7-16		〔イ〕 雀玉 〔ホ〕 拾五号 雀玉	27	24		○	
476	7-17		〔ハ〕 ハクノ玉 〔ホ〕 十八号 ハクノ玉	23	23			
477	7-18		〔イ〕 狼之玉 〔ホ〕 拾六号 狼玉	41	37		○	
478	7-19		〔イ〕 狼玉 〔ロ〕 狼ノ玉 〔ホ〕 十七号 狼玉	27	27		○	
479	7-20		〔イ〕 白狎玉 〔ホ〕 十■号 白狎玉	26	19			
480	7-21	(1)	〔ハ〕 ■玉 〔ホ〕 拾四号 ■玉 猿猴玉 御書入	16	16			
		(2)	〔ハ〕 古渡り猿猴玉希なりもの 〔二〕 ■玉	10	11			
481	7-22		〔ハ〕 ★★★ 〔二〕 ルイ螺玉 〔ホ〕 拾一号 螺玉	46	45			
482	7-23	(1)	〔イ〕 班★★★玉 〔ハ〕 古渡り班■玉ー 〔ホ〕 廿八号 班■玉 射鹿此ノ■ノ字不明盤 / 砂利	12	14			
		(2)	〔ハ〕 射鹿措盤一ツ					本体なし
483	8-1		〔二〕 朝鮮本人形大人参大極上本頂人形生人參 文化十二乙亥年六月大安日	110			○	寸法は最大
484	8-2			113	48			サメ類の卵殻カ
485	8-3	(1)	〔二〕 此■足名不分	102			○	8-3 (2) と同種カ、ミイラ化
		(2)		116			○	8-3 (1) と同種カ、ミイラ化、首折損 (頭部外れ)
		(3)	〔二〕 帛の指籠り	137			○	サルの手カ、ミイラ化
486	8-4			94	56	21	○	サメ類の卵殻カ
487	8-5	(1)	〔ホ〕 丹頂霍ノ玉 唐霍頭ノ骨 古渡り龜眼	(32)	(30)			3点 (3種カ)、外箱 137 × 51 × 32 mm
		(2)		15	17			
		(3)	〔二〕 丹頂雀之玉				○	紙片のみ (本体なし)
488	8-6	(1)		93	38			
		(2)	〔ハ〕 極上品金毛録 〔二〕 先之方よりハ少々中之方 金毛録 壺両ニ而求	200	56			2点、寸法は最大
489	8-7			176	39	47		
490	8-8			60	44	44		
491	8-9	(1)	〔二〕 ■リウセスミツ / 桂	51	12			
		(2)		56	19			
492	8-10		〔二〕 ■手紅毛ニ而ハ上ノ通	44	32	22	○	
493	8-11		〔ハ〕 象肉	50	36	26		コプロライト (糞の化石) カ
494	8-12			42	24	21		
495	8-13			34	29	27		
496	8-14			(75)	(53)	(43)		
497	8-15	(1)		35	19	20		
		(2)		44	33			
		(3)		34	32	20		
		(4)	〔イ〕 古渡りセリ正味六目七分	86	44		○	
		(5)	〔二〕 天■■ー	43	22	25		



■ 展覧会に係る実物資料の貸出(主な実績)

- ・ 国立科学博物館
- ・ 国立民族学博物館
- ・ 国立歴史民俗博物館
- ・ 福島県立博物館
- ・ 宮崎県立博物館
- ・ もりおか歴史文化館
- ・ 遠野市立博物館
- ・ 姫路市立水族館

ほか

資料貸借に際し、各館所属の学芸員・研究員の皆様から貴重な御意見・御教示を賜りました。
末筆ながら、記して感謝申し上げます。

■ 主要参考文献等

- ・ 『倭漢三才図会』, 『公益本草大成 (和語本草綱目)』, 『医療衆方規矩大成』 (当館蔵)
- ・ 『本草弁疑』 (八戸市立図書館蔵)
- ・ 『神農本草経』, 『用薬須知』 (国立国会図書館蔵/デジタルコレクション)
- ・ 国立科学博物館『化け物の文化誌—化け物に注がれた科学の目—』 (2006)
- ・ 国立民族学博物館『特別展 驚異と怪異—想像界の生きものたち—』 (2019)
- ・ 国立歴史民俗博物館『企画展示 大ニセモノ博覧会—贋造と模倣の文化史—』 (2015)
- ・ 福島県立博物館『あはひのクニ あやかしのクニ—ふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異—』 (2021)
- ・ 八戸市博物館『特別展「江戸 妖怪物語」図録』 (2007)
- ・ 浅見 恵、安田 健『近世歴史資料集成 第Ⅴ期 第Ⅸ巻 救荒 [2]』 (科学書院, 2008)
- ・ 上原 巖『主婦の友百科シリーズ 山野草カラー百科』 (主婦の友社, 1984)
- ・ 高津 孝『江戸の博物学 島津重豪と南西諸島の本草学』 (平凡社, 2017)

※ 八戸南部家旧蔵「博物標本資料」は、常設展示資料ではありません。

調査研究を目的として、実物資料の閲覧・撮影を御希望の方は、原則2週間前までに八戸市博物館へ御相談下さい。内容・日程等を事前に打ち合わせの上、担当学芸員が対応させていただきます。

なお、資料個別の状態により、画像データでの閲覧対応とさせていただく場合がございます。御理解のほど宜しくお願い申し上げます。

また、画像データの借用を希望される方は、別途お問合せ下さい。

【お問合せ】

八戸市博物館 青森県八戸市大字根城字東構 35-1

電話：0178-44-8111

FAX：0178-24-4557

Mail：haku@city.hachinohe.aomori.jp (代表)

※休館日のお問合せには、対応いたしかねます。

開館状況は、ホームページ等で事前に御確認下さい。

※担当学芸員が不在の場合もございます。

